

---

令和5年度

女性のキャリア形成や意思決定過程への参画についての調査研究

# 男女共同参画センターの 「地域の女性リーダー」 育成にかかわる取組み

—地域における男女共同参画の実現にむけて—

---



NWEC

独立行政法人 国立女性教育会館  
National Women's Education Center



# はじめに

日本政府が2003年に掲げた「社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的地位に女性が占める割合が、少なくとも30%程度になるよう期待する」という目標は、達成には遠く至りませんでした。なかでも「地域」は、意思決定過程への女性の参画が大きく遅れています。

女性をはじめ多様な人々が地域活動に参画し、リーダーシップを発揮することは、男女共同参画社会の実現や持続可能な地域社会を構築するための喫緊の課題となっています。女性や女性と同様に固定的なあり方を強いられてきた男性、若者など、多様な人々の経験や知恵を尊重し、生かしてこそ、地域の多様化する課題やニーズに対応し、「誰も取り残さない社会」を実現することができます。

そこで国立女性教育会館では、男女共同参画センターや自治体等による、意思決定過程への女性の参画促進に関する取組みの現状と課題等について明らかにすることを目的として、令和4年度から2か年計画で「女性のキャリア形成や意思決定過程への参画についての調査研究」を実施しました。本事例集はその成果の一部として、「地域の女性リーダー」育成にかかわる男女共同参画センターの取組みについて紹介するものです。男女共同参画センターや自治体等、地域における男女共同参画推進を担当される方々に広くご活用いただけましたら幸いです。

最後になりますが、本調査研究にご協力いただきました関係者の皆様に、厚くお礼申し上げます。

独立行政法人国立女性教育会館  
理事長 萩原 なつ子

# 目次

はじめに.....	1
<b>I 本事例集について</b>	
1. 事例選定の方法 .....	6
2. 事例の分類 .....	7
3. 本事例集の使い方 .....	8
<b>II 「地域の女性リーダー」育成にかかわる事例</b>	
<b>1. 幅広く「地域の女性リーダー」を育成する事業</b>	
事例1：山形県男女共同参画センター 「チェリア塾」 .....	10
事例2：埼玉県男女共同参画推進センター 「女性リーダー育成講座」 .....	16
事例3：小野市男女共同参画センター 「おのウイメンズ・チャレンジ塾」 .....	22
<b>2. 重要な社会課題をテーマとする事業</b>	
(1) 政治分野における男女共同参画	
事例4：佐賀県立男女共同参画センター 「政治参画セミナー」 .....	27
(2) 自治会における男女共同参画	
事例5：秋田県北部男女共同参画センター 「地域の女性リーダー育成事業」「地域の女性リーダー応援事業」 .....	32
(3) 防災分野における男女共同参画	
事例6：京都市男女共同参画センター 「防災リーダー育成事業」 .....	37
<b>3. 「地域の女性リーダー」育成に伴う課題解決のヒントになる事業</b>	
(1) 高度な学びを提供	
事例7：徳島県立男女共同参画総合支援センター 「とくしまフューチャーアカデミー」 .....	42
事例8：薩摩川内市男女共同参画センター 「女性チャレンジ委員会」「エンパワーメントセミナー」 .....	46

(2) 学びを実践につなげる工夫	
事例9：仙台市男女共同参画推進センター エル・パーク仙台	
「地域版女性リーダー育成プログラム“決める・動く”」	51
(3) 参加者のハードルを下げる工夫	
事例10：三重県男女共同参画センター	
「人財育成講座“種まきプロジェクト～地域編～”」	56
(4) 若年層を対象	
事例11：ぐんま男女共同参画センター	
「エンパワメント・ユースカレッジ」「大学生サマープログラム」	61

### Ⅲ 「地域の女性リーダー」育成事業を実施し、成果を得るために … 68

### Ⅳ 座談会：地域の女性リーダーを育てるために、 男女共同参画センターができること … 72

### Ⅴ 資料：令和5年度 国立女性教育会館 「男女共同参画センターによる地域の女性リーダー育成事業に 関する調査」概要と結果

1. 概要	80
2. 主な結果	81
男女共同参画センターによる「地域の女性リーダー」育成に関する事業（一覧）	82
調査票	86



# I

本事例集について

# 1. 事例選定の方法

国立女性教育会館では「地域の女性リーダー」育成に関して全国の男女共同参画センターがどのような事業を実施しているのか把握するため、令和5年8月～9月に「男女共同参画センターによる地域の女性リーダー育成事業に関する調査」を実施しました。

これまで男女共同参画センターでは様々な「地域の女性リーダー」が育成されてきましたが、本調査では「PTA役員や自主防災組織のリーダー、自治会長、審議会委員、議員等、地域の意思決定過程に参画する女性」や「地域課題の発見や解決に取り組む女性」に焦点をおきました。本事例集では、このような女性人材の育成にかかわる事業を「昨年度もしくは今年度を実施した」と回答した84施設の事例のなかから、次のような視点で11事例を選び、掲載しています。

## 事例選定の視点

1. 幅広く「地域の女性リーダー」を育成している事業
2. 重要な社会課題をテーマとして、「地域の女性リーダー」を育成している事業
3. 「地域の女性リーダー」育成事業の企画・実施において、多くの男女共同参画センターが直面している課題を解決するヒントになる事業

### ・高度な学びを提供する事業

プログラムを専門化すると、参加者が集まりにくい…

### ・学びを実践につなげる工夫がなされた事業

学びで終わりがち…

### ・参加者の物理的・心理的ハードルを下げる工夫がなされた事業

長期の連続講座や「リーダー育成」を前面に出す講座は躊躇される…

### ・若年層を対象とする事業

参加者が中高年層に偏りがち…

なお、極端な地域の偏りがなく、男女共同参画センターの特徴（設置者、運営形態等）に極端な偏りがなく配慮しました。



## 2. 事例の分類

本事例集では、11事例を下記のように分類しています。

### (1) 幅広く「地域の女性リーダー」を育成する事業※

事例1：山形県男女共同参画センター「チェリア塾」

事例2：埼玉県男女共同参画推進センター「女性リーダー育成講座」

事例3：小野市男女共同参画センター「おのウィメンズ・チャレンジ塾」

### (2) 重要な社会課題をテーマとする事業

#### ①政治分野における男女共同参画

事例4：佐賀県立男女共同参画センター「政治参画セミナー」

#### ②自治会における男女共同参画

事例5：秋田県北部男女共同参画センター

「地域の女性リーダー育成事業」「地域の女性リーダー応援事業」

#### ③防災分野における男女共同参画

事例6：京都市男女共同参画センター「防災リーダー育成事業」

### (3) 「地域の女性リーダー」育成に伴う課題解決のヒントになる事業

#### ①高度な学びを提供

事例7：徳島県立男女共同参画総合支援センター「とくしまフューチャーアカデミー」

事例8：薩摩川内市男女共同参画センター

「女性チャレンジ委員会」「エンパワーメントセミナー」

#### ②学びを実践につなげる工夫

事例9：仙台市男女共同参画推進センター エル・パーク仙台

「地域版女性リーダー育成プログラム“決める・動く”」

#### ③参加者のハードルを下げる工夫

事例10：三重県男女共同参画センター「人財育成講座“種まきプロジェクト～地域編～”」

#### ④若年層を対象

事例11：ぐんま男女共同参画センター

「エンパワーメント・ユースカレッジ」「大学生サマープログラム」

※令和5年度 国立女性教育会館「男女共同参画センターによる地域の女性リーダー育成事業に関する調査」において、下記すべての選択肢に該当する人材が誕生したと回答された事業  
「地域課題を解決するための団体・グループ等を立ち上げた」  
「地域課題を解決するための団体・グループ等の役員やリーダーになった」  
「自治会役員になった」「審議会委員になった」「議員になった」  
「貴センターの事業の企画や実施等にかかわった」

### 3. 本事例集の使い方

本事例集は、自治体の男女共同参画担当部局や男女共同参画センター等、地域において男女共同参画を推進する機関や団体等が、地域の意思決定過程への女性の参画や地域における男女共同参画の推進にかかわる事業を企画・実施する際に、活用していただくことを想定しています。前述したアンケート調査の結果をもとに、令和5年度時点における、全国の男女共同参画センターによる「地域の女性リーダー」育成にかかわる事業の現状と成果、課題等についてまとめたものです。



Ⅱ「地域の女性リーダー」育成にかかわる事例では、各事例について、背景や目的、プログラムの特徴と工夫、今後の抱負等が示されています。「地域の女性リーダー」育成事業には様々な困難が伴うことから、試行錯誤や苦勞、未解決の課題についても紹介しています。またセミナー形式の事業等については、プログラム内容がわかるようチラシを掲載しました。

Ⅲ「地域の女性リーダー」育成事業を実施し、成果を得るためには、事例紹介した11のセンターから伺ったお話をもとに、「地域の女性リーダー」育成にかかわる事業を企画・実施するうえで、多くの男女共同参画センターが直面している3つの課題に対する「解決のヒント」を記しています。



Ⅳ座談会：地域の女性リーダーを育てるために、男女共同参画センターができることは、長年、地域の女性リーダー育成事業にかかわり、全国の男女共同参画センターや自治体の実情に詳しい方々にお集まりいただいて、開催したものです。地域における男女共同参画を推進するうえで、「男女共同参画センターにできることは何か」を改めて問う内容になっています。

Ⅴ資料には、本事例集のもととなる「男女共同参画センターによる地域の女性リーダー育成事業に関する調査」の概要と主な結果を掲載しています。「男女共同参画センターによる“地域の女性リーダー”育成に関する事業（一覧）」は、新たな事業の立ち上げや事業の改訂等を検討する際にご活用ください。



## Ⅱ

「地域の女性リーダー」  
育成にかかわる事例

## 1. 幅広く「地域の女性リーダー」を育成する事業

### 事例1 ～体系的プログラムを県内4地域で順次開催～ 山形県男女共同参画センター（山形県）

# チェリア塾

男女共同参画を正しく理解し、対等な人間関係を構築できるよう、自らをエンパワーメントし、多様な分野でチャレンジ・実践できる人材を育成しています。「基本」「実践」「専門」と体系的にステップアップする講座を、県内の4地域（村山、最上、置賜、庄内）で順次開催します。

#### 実施の背景とこれまで

山形県は女性の労働力率や共働き率が全国トップクラスですが、PTA会長、自治会長等、地域の意思決定過程への女性の参画が進まない現状にあります。このため、女性のエンパワーメントを促進し、内なるリーダーシップを発揮できるよう支援することが必要です。

平成16（2004）年度に現在の「基本コース」にあたる講座を立ち上げ、翌年度には、修了生がフォローアップコースに進む「2年完結型」を整えました。平成24（2012）年度にこれまでの体系を見直し、だれでも参加できる幅広い講座にしたところ、いわゆる「学習講座」になってしまいました。「ネットワーク構築」という当初の理念を復活させるため再度見直し、平成27（2015）年度以降、2年完結型（「基本コース」＋「実践コース」）を毎年2地域で開催し4年間で4地域を一巡、別途「専門コース」を開催するという形式が定着しています。

## プログラムや事業の特徴

### （1）体系的なプログラム

1年目は、「基本コース」で男女共同参画に関する基本的な知識と考え方を身につけます。また受講生同士の交流を深め、企業や地域において男女共同参画を推進するキーパーソンの育成とネットワーク化を図ります。

2年目は、「実践コース」で事業を企画・運営する実践力を習得します。「基本コース」の修了生を対象に更なる男女共同参画社会づくりを進めるとともに、自主講座の開催手順等、地域や団体のリーダーとして活躍するために必要な実践的な力量を形成し、事業を進める自信とネットワークを深めます。

社会貢献活動等さらなる高みをめざす修了生は、「専門コース」で講師としての実践活用をめざします。チェリア塾修了生や山形県男女共同参画推進員を対象に、出前講座等の講師としてワークショップを実践できる力を養成します。

プログラムを大幅に見直した平成27（2015）年度以降、「基本コース」は5回の連続講座、「実践コース」は4回の連続講座と自主企画講座、「専門コース」は3回の連続講座です。

## （2）修了後も活動を促す3つの仕組み

第一に、チェリア塾の運営に参画してもらいます。修了生のネットワーク（団体・グループ）に、アイスブレイクやファシリテーター等を依頼しています。実践の場を提供することで地域のネットワークが強化されるとともに、修了生のスキルアップやブラッシュアップにつながります。県内の各4地域で、修了生と受講生がタテにつながる機会でもあります。

第二に、センターの助成事業等の活用を奨励しています。「実践コース」で学んだ経験を修了後の活動に活かせるよう、地域における女性団体等の活性化を図ることを目的に講師謝金等を助成する「男女共同参画ネットワーク活動支援事業」や「県民企画事業」等を活用して、自主事業を実施するよう促しています。若年女性の流出等、地域存続の危機を前にして、「お金がない」ことを言い訳にせず、資源を活用して地域課題を解決しようというマインドが育っています。

第三に、個人単位の活動も支援しています。たとえば県の男女共同参画推進員に応募し、出前講座の講師やファシリテーター等として活動することができます。センターが企業や学校等から依頼を受け、テーマに応じて派遣しています。男女共同参画推進員のさらなる研修の場として「専門コース」を位置づけるとともに、「やまがた緑塾」を別途開催して、理論的な学びの機会も提供しています。

## （3）地域の特色を生かしたプログラム

県内4地域の実情にあったプログラムにするため、開催地域単位で形成されている修了生のネットワーク（団体・グループ）に、企画段階から参画してもらいます。テーマや講師についてアドバイスを得ることで、地元で活躍している人に講師や事例発表が依頼できます。修了生が助成事業を活用して自主事業を活発に展開し、地域単位でグループ化しているので、「次期の企画・運営について、地元の修了生に相談する」というサイクルができています。

## （4）行政担当者も参加

開催地域の行政担当者には、傍聴等ではなく、一参加者としての参加を勧めています。行政職員は講座内容を把握しているので、プログラムを円滑に進めることができます。

## 令和5年度事業の概要

対象・定員	
基本コース in 置賜	男女共同参画を学びたい、またはその推進にむけて行動したい女性 25名（先着順）
実践コース in 庄内	前年度のチェリア塾基本コース in 庄内修了生
専門コース	チェリア塾修了生及び山形県男女共同参画推進員10名（3回とも参加できる方優先）
実施体制	
・基本コースは米沢市と共催し、会場確保や広報を依頼	
事業評価の指標・方法	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県に修了生数を報告</li> <li>・次年度の企画・運営等に生かすため、下記を実施</li> </ul>	
基本コース	毎講座後にアンケートと「学習のふりかえりシート」（＝講座の中で印象に残ったことや学んだこと等を回答）
実践コース	最終講座でアンケート（＝自主企画事業で一番苦労したこと、自主企画を通じて学んだこと、チェリア塾での経験を活かしてこれからやりたいこと、本センターと協働できることがあるか等を回答）
専門コース	最終講座でアンケート（講座内容に関する評価に加えて、出前講座等の講師を引き受けられるかを回答）



---

---

## 成果

修了後に地域課題を解決するための団体やグループを立ち上げた人、団体・グループの役員やリーダーになった人、自治会役員や議員になった人もいます。

令和元（2019）年度に過去の全ての修了生を対象にアンケートを実施したところ、100人から回答を得ました。結果は、学んだことがその後生きていると「とても感じる」45%、「感じる」51%。修了後に始めたことの上位は「講座等参加」50人、「行政委員・講師等」31人、「ボランティア・社会貢献」31人。参加して得たものの上位は「仲間や同志」59人、「新たな自分を発見」56人、「男女共同参画に関する知識」51人。参加後とるようになった行動の上位は「町内会・PTA・所属団体の会合で発言する」32人、「家庭内の役割分担の変更」28人、「子どもの育て方・しつけの変化」27人（すべて複数回答）。受講によって、意識や行動が確実に変化しています。

---

---

## 今後の課題・抱負など

県内4地域を満遍なく回って県全域の男女共同参画を推進するとともに、各地域のもつ独自性や地域性を活かした講座を提供したいと考えています。

企業との関係を強化し、社員研修の一環として受講してもらえるようになれば、とも考えています。土日開催なので企業から派遣してもらうことが難しく、企業との関係強化は課題です。20～30代の参加も増やしたいです。

---

山形県男女共同参画センター

所在地：山形市緑町1丁目2-36

運営形態：公設民営、開館年：2001年、職員数：7人

運営者：公益財団法人 山形県生涯学習文化財団

## 令和5年度 チェリア塾 基本コース in 置賜 全5回

### 第1回

6月24日（土）

10:00～15:00

米沢市すこやかセンター  
第2会議室

「このモヤモヤはどこから ～ジェンダーと人権～」

講師 山形県男女共同参画センター館長 伊藤真知子

日々の暮らしのなかで、女だから？女らしく？とモヤモヤしたりしていませんか。世界はジェンダー平等に向かっていきます。置賜のモヤモヤのもとを知り、私たちができることは何か、ともに考えていきましょう。



### 第2回

7月22日（土）

10:00～15:00

米沢市すこやかセンター  
第2会議室

「キャリアデザイン ～自分にできること・したいこと・やらなければならないこと～」

講師 有限会社ティップス取締役社長 尾形恵子 氏

社会に出て働く女性の数が比較的多いと言われる山形県ですが、いざというときに気軽に相談できる人が身近にいないという方も案外多いのだそうです。地域社会の中で気軽に相談したり協力し合える仲間探しを兼ねて、自分の未来像を描きにお越しになりませんか。



### 第3回

8月26日（土）

10:00～15:00

置賜総合文化センター  
2階 和室

「自分を生きる航海術」

講師 合同会社ファミリーコンパス代表 渋谷聡子 氏

「正しい生き方」から「自分らしい生き方」へ。自分の「願い」を知り、「自分らしく生きる指針」を自分の内側に育んでいく。そして、自分の願いも相手の願いも大切に尊重し合う世界を創る「対話」を、体験と共に理解していく学びの旅をご一緒にしましょう。



### 第4回

9月23日（土）

地域の実践者から学ぶ

10:00～12:00

デザインシンキング  
13:00～15:00

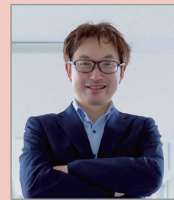
米沢市すこやかセンター  
第2会議室

「地域の実践者から学ぶ」 事例発表者 ・スタジオ八百萬代表 山田茂義 氏  
・夢プロジェクト『竹あかり×ゆき×祈り』実行委員会

「デザインシンキング ～課題の考え方、取り組み方を身につけよう～」

講師 宮城大学事業構想学群准教授 青木孝弘 氏

デザインシンキングとは技術やビジネス起点ではなく、「ひと」の立場を起点に課題解決をめざす人間中心のアプローチとされています。共感性がますます重視される現代において、地域、職場、家庭など様々な場所で必要とされるデザインシンキングの基本的な考え方を一緒に学びましょう。



### 第5回

10月28日（土）

10:00～15:00

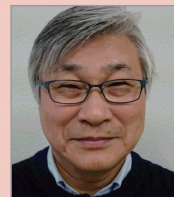
米沢市すこやかセンター  
第2会議室

「今日はゴールをスタートに変える日

～ふりかえりと次のステップへの踏み出し～」

講師 一般社団法人とちぎ市民協働研究会代表理事 廣瀬隆人 氏

孤立と孤独の中では幸せになれない。語り合い、「おなじ」に着目して、同志になれば自分の力に気づきます



- 連続受講を基本とします。3回以上参加の方には修了証を発行いたします。
- 次年度は「チェリア塾実践コース」の開催を予定しています。ぜひあわせてご参加ください。



令和5（2023）年度「専門コース」チラシ

## 令和5年度 **チェリア塾専門コース** 受講料無料

### ～男女共同参画ワークショップ技法の習得～

自分でワークショップを企画し、ひとりひとり実践します。実践をくり返し完成度を高めることにより、出前講座の内容と質の充実、講師としてのレベルアップを目指します。

#### 第1回 ワorkshop 実践の準備 11月4日(土) 10時～16時

\*-----\*

- ・ファシリテーションのスキルを磨く
- ・自分が実践したいワークショップの内容を決め、完成させる

#### 第2回 ワorkshop 実践 Step1 12月3日(日) 10時～16時

\*-----\*

- ・ひとりひとりワークショップを実践する
- ・フィードバックをもらい、実践 Step2に備える

#### 第3回 ワorkshop 実践 Step2 1月14日(日) 10時～16時

\*-----\*

- ・ワークショップをブラッシュアップし、再度実践する
- ・自分の実践をふりかえる

#### 講師

\*-----\*

山形県男女共同参画推進員  
有川 富二子 氏  
石澤 多貴子 氏  
沼野 慈 氏  
村山 恵美子 氏

#### 対象

\*-----\*

チェリア塾修了生  
山形県男女共同参画推進員  
計10名  
(3回とも参加できる方優先)

#### 会場

\*-----\*

遊学館(山形市緑町 1-2-36)  
第1回・第2回/学習室(2階)  
第3回/第3研修室(3階)

#### 託児

\*-----\*

無料・先着順  
1歳児～未就学児  
(要申込み)

#### アドバイザー(第2回)

\*-----\*

東北文教大学短期大学部特任准教授  
齋藤 由美子 氏

#### お申込み方法

\*-----\*

10月25日(水)までに、下記  
QRコードよりお申込みください

お問合せ  
山形県男女共同参画センター「チェリア」  
〒990-0041 山形市緑町 1-2-36(遊学館2階)  
TEL.023-629-7751/FAX.023-629-7752  
E-mail [kikaku@yamagata-cheria.org](mailto:kikaku@yamagata-cheria.org)  
HP <https://yamagata-cheria.org>  
9:00～17:00(第1・3・5月曜日、第3日曜日 休館)



※お申込みいただいた個人情報は、本講座運営上の目的以外で使用することはありません。

## 1. 幅広く「地域の女性リーダー」を育成する事業

### 事例2 ～ジェンダー構造への気づきと新たな行動を後押し～

埼玉県男女共同参画推進センター（埼玉県）

## 女性リーダー育成講座

幅広い講義で視野を広げ、それぞれの活動の場でリーダーシップを発揮できる力を伸ばすとともに、ネットワークを広げることを目的とした連続講座です。

### 実施の背景とこれまで

埼玉県では、平成27（2015）年度に女性限定のリーダー発掘・育成講座として「女性のための政策セミナー」を開催しました。半日ずつ全3回で男女共同参画政策についての学習や基礎データの読み解き等を行う啓発型のプログラムでしたが、翌年度は「女性リーダー養成講座」と改称して全4回としました。

さらに平成30（2018）年度からは、「女性リーダー育成講座」という名称で、埼玉県男女共同参画推進センター（以下「センター」）で行っている一般向けの講演等を公開講座としてカリキュラムに組み込み、より多彩な内容としました。開催時間を終日に、回数も全9回に拡大して、本格的な人材育成型プログラムを実施しています。また、受講生は自らの学習テーマを定め、講座での学びを活かしたレポートや目標に向かってのアクションプランを作成します。そして最終日の成果報告会で発表することで、課題解決力やプレゼンテーション能力を育むとともにリーダーとしての自覚を促しています。

なお、子育て中の人も参加しやすく、受講中は講座に集中できるよう、保育サービスも実施しています。

## プログラムや事業の特徴

### （1）リーダー力を育てる5つの工夫

第一に、女性が地域で直面する様々な問題をジェンダー視点で把握するため、必要な知識とスキルを講義形式で提供しています。第二に、リーダー力育成のプロセスとチームワークの形成を重視しています。そのためにはアクティブ・ラーニングが有効と考え、演習・実習形式を取り入れています。関係者への聞き取り調査やアンケート調査等も各人が主体的に取り組みます。第三

にグループワークを重視し、グループ・ディスカッションの時間を増やすことで、メンバー間の調整力やコミュニケーション力をエンパワーメントしています。第四に、活動団体等へのフィールドワークを通して、地域の現状と課題等への理解を深めます。第五に、修了生や地域で活躍している女性グループとつなげる等、関心を広げて活動に踏み出すきっかけを提供しています。

## (2) 「女性だけの学び」でエンパワーメント

受講対象者を女性に限定しているため、「自分だけの問題」と思っていたモヤモヤを社会的・歴史的観点から理解し、読む力を身につけ、また受講生同士で語り合い、悩みや想いを共有することで、それが「女性ゆえに直面する問題」であるという気づきを得ることができます。ジェンダー構造への理解も深められます。また、共に歩む仲間から刺激を受ける中でエンパワーメントされ、自分の言葉で発信できるようにもなります。自分のやりたいことが見えてきて、前向きに行動しようという意欲を持つことができるようになるのが、この講座の醍醐味です。

## (3) 講師と職員によるきめ細やかなフォロー

半年を超える講座実施期間を通じて、講師と担当職員が受講生と適宜連絡を取りあい、円滑な受講を支援しています。個々の受講生のニーズや理解の度合いに合わせて声がけするなど、一人ひとりに寄り添ったコミュニケーションを意識しています。

講座実施日以外にも個別相談の機会を設け、希望者には講師から自主学習や成果レポート作成へのアドバイスを行っています。メールや電話で質問や相談を受けたときは、職員と講師とで相談しながら対応しています。欠席者に対しても講座の概要を共有し、理解や取組に差が生じないようにフォローに努めています。

## (4) 一人ひとりの主体性や発言力を伸ばす

当初は「グループ単位」で調査やレポート作成・発表を行っていましたが、コロナ禍でソーシャル・ディスタンスを保つ必要もあり、令和2(2020)年度からは「個人単位」で調査やフィールドワーク、成果報告会用のレポート作成を行っています。その結果として、メンバーのニーズや目標の多様化、日程調整の難しさといったグループ学習の際に生じていた課題は解消され、受講生と講師・職員との「一対一の関係性」がより深まりました。反面、「受講生同士のつながり」の希薄化が懸念されたことから、レポート作成に向けて数回実施する「課題学習」ではグループワークを多く取り入れ、学習内容の発表や質疑応答等を活発に行って仲間意識を育んでいます。

## (5) 修了生同士の交流をサポート、講座の効果を検証

修了後は、地域の各種審議会委員公募などの情報を適宜提供し、地域リーダーとしての活躍を促します。修了後にどのような活動にチャレンジしたのか問い合わせるアンケートを毎年実施して、各人の振り返りを促す機会とすると同時に、講座の効果検証を行っています。

また、年に1～2回、過去の全修了生を対象にフォローアップ講座を開催し、修了後に必要な知識の提供や、近況報告・情報交換を行うことで、修了生間のネットワークづくりや活動の継続をサポートしています。講師や職員がつなぎ役となって、修了生同士によるグループの立ち上げ

を後押ししたケースもありました。

## 令和5年度事業の概要

### 対象・定員

埼玉県在住・在勤・在学の女性で、地域活動や社会活動に参画する意欲を持ち、下記の1～4を満たす方

1. 全9回のプログラムに毎回参加できる方
2. 修了後も男女共同参画の推進に努めていただき、その後の活動状況等の調査や、修了生のネットワーク形成に積極的に取り組んでいただける方
3. インターネット環境があり、メールでファイルの送受信ができる方
4. オンラインでの動画の視聴、Web会議利用が可能な方

・定員：30名（受講申込書到着順、ただし初めての参加の方を優先）

### 実施体制

本センター主催（単独開催）

### 事業評価の指標・方法

- ・参加者数
  - ・「受講後に新たな活動を行った」修了生の割合
- ※平成30（2018）年度以降の全修了生を対象に毎年実施する追跡調査で、「受講後に何らかの新たなチャレンジを行ったか」を質問し、明らかになった数



---

---

## 成果

修了後、地域課題を解決するための団体やグループを立ち上げた人、団体・グループの役員やリーダーになった人、自治会役員や審議会委員、地方議会の議員になった人もいます。

今までセンターを知らなかった人が、受講を機にこのセンターを大事な場所と思うようになり、ボランティアのサポートスタッフとして活躍している例もあります。

また、近年は県内市町村の行政職員や男女共同参画推進センター職員の受講も増えており、この講座が、女性人材の育成を通じて地域の男女共同参画の推進に多少なりとも寄与していると考えています。

---

---

## 今後の課題・抱負など

この講座が現在のかたちになってから5年以上が経ち、修了生も100人を超えました。この貴重な人材がそれぞれの地域で活躍できるような支援が必要ですが、現在は、修了生対象のフォローアップ講座や、メーリングリストによる情報提供等に留まっている状況です。

そのため、今年度、すべての修了生を対象にアンケートやインタビューによる調査を実施しました。活動の阻害要因や継続のためのニーズなどを把握したうえで、今後は、講座で培った力を更に地域で発揮してもらうために、修了後のサポート体制を強化したいと考えています。特に、修了生相互の繋がりが重要であることから、志を同じくする修了生同士のグループ立ち上げやネットワーク形成などに係わりたいと思います。

この女性リーダー育成講座のキャッチフレーズは「女性の声で地域を変えよう」です。修了生たちが声を上げ、地域を変え、そして輝いていけるよう支援していきます。

---

埼玉県男女共同参画推進センター

所在地：さいたま市中央区新都心2-2

運営形態：公設公営、開館年：2002年、職員数：30人

運営者：埼玉県

## スーパーバイザー

この講座の全体コーディネート・アドバイスを担当します。

### メッセージ

昨年「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が成立しました。この法律に基づいて、今後各地域で様々な当事者への支援が行われていきますが、ジェンダー平等、多様性、人権の知識と視点を持った担い手の育成が求められています。「困難な問題を抱える女性」とはいったい誰のことなのでしょう？法律がカバーしていること、できていないことは何なのでしょう。この法律をどう使っていくのか、そのときにどんな人たちを排除したり取り残したりしないよう気をつけなければならないのか、一緒に考えていきましょう。



社会学・ジェンダー研究者  
ふえみ・ゼミ&カフェ  
運営委員

あつた けいこ  
熱田 敬子さん

## プログラム

### 課題学習

今年度の課題テーマは「困難を抱える女性」です。各自の関心により具体的なテーマを設定して調査・学習を進め、レポートを作成します。最終日には公開による成果報告会を行います。

### 講義

視野を広げるため、男女共同参画に関わる幅広い分野の講義を実施します。なお、講義②「男女共同参画とは」（6/17）、講義⑤「性教育・SRHR」（10/21）は、配信動画を視聴していただきます。

### 交流

活動団体や修了生との交流により結びつきが生まれます。

### スキルアップ

実践的トレーニングを行い、自分の意思をしっかりと相手に伝えるスキルを学びます。

	日時	AM (10:00 ~ 12:30)			休憩	PM (13:30 ~ 16:30)		
第1回	7/15 (土)	開講式	オリエンテーション	ライブラリーガイダンス		講義① A 男女共同参画基礎知識		
第2回	7/29 (土)	交流① 修了生による実践報告と交流会				交流② B 聴く・知る・学ぶ		
第3回	8/19 (土)	課題学習①				講義③ C 困難を抱える女性	公開講座	交流③ 活動団体との懇談
第4回	9/9 (土)	講義④ D 国立女性教育会館（NVEC）見学・理事長講話・ジェンダー統計						
課外	9月	課題学習個別相談（希望者）						
課外	10/14 (土)	交流④ フィールドワーク 支援施設見学（希望者）						
第5回	11/11 (土)	課題学習②				講義⑥ E 活動資金と仲間づくり		
第6回	12/16 (土)	課題学習③ 中間発表						
課外	1/13 (土)	課題学習個別相談（希望者）						
第7回	1/20 (土)	スキルアップ① F 自己表現スキル				スキルアップ② F 自己表現スキル		
第8回	2/4 (日)	交流⑤ With You さいたまフェスティバル ワークショップ参加				講義⑦ With You さいたまフェスティバル講演会		公開講座
第9回	3/16 (土)	ミニ講義	課題学習 成果報告会①	公開		課題学習 成果報告会②	公開	修了式

## 講師の紹介

7/15  
(土)

### 講義① 男女共同参画基礎知識

A

社会学・ジェンダー研究者  
ふえみゼミ&カフェ運営委員

あつた けいこ  
熱田 敬子さん

With You さいたま事業コーディネータ

うすい あつこ  
薄井 篤子

男女共同参画の基礎知識やアンコンシャスバイアス、課題学習のテーマである「困難を抱える女性」について学びます。

録画  
配信

### 講義② 男女共同参画とは

公開講座

#男女共同参画ってなんですか代表  
GENCOURAGE(ジェンカレ)代表

まくらい あやの  
櫻井 彩乃さん

高校生の時からジェンダー平等実現を目指して活動を始め、現在、内閣府等様々な審議会委員を務める講師から、若い世代が求める社会について話を伺い、ともに考えます。



7/29  
(土)

### 交流② 聴く・知る・学ぶ

B

神経筋疾患ネットワーク代表・  
ピアカウンセラー

みかた のぶこ  
見形 信子さん

一般社団法人にじず埼玉スタッフ

ふるどう たつや  
古堂 達也さん

一般社団法人コンパスナビ  
支援事業部 マネージャー

かわもと きみえ  
河本 稀英さん

さまざまな活動をしている方々と交流します。



8/19  
(土)

### 講義③ 困難を抱える女性

C

公開講座

城西国際大学  
福祉総合学部教授

ほり ちつこ  
堀 千鶴子さん 他

「困難な問題を抱える女性への支援のあり方に関する検討会」の座長を務めた講師とともに、困難を抱える女性の現状と課題について学びます。活動団体からの報告もあります。



録画  
配信

### 講義⑤ (10/21開催。会場参加も可能です)

### 性教育・SRHR

公開講座

産婦人科医

えんみ さきこ  
遠見 才希子さん

埼玉大学副学長(ダイバーシティ推進・  
キャンパス環境改善担当)、教育学部教授、  
ダイバーシティ推進センター長

たしろ みえこ  
田代 美江子さん

国内初の「飲む中絶薬」承認のニュースが話題となりました。誰にとっても大切なSRHR(性と生殖に関する健康と権利)について学びます。



11/11  
(土)

### 講義⑥ 活動資金と仲間づくり

E

認定NPO法人さいたまNPO  
センター専務理事

むらた けいこ  
村田 恵子さん

埼玉県県民生活部 共助社会づくり課  
活動支援担当職員

地域活動を継続していくにはどうすればよいか、NPO活動のための資金や仲間集め、活動を支援する県の取組について学びます。



1/20  
(土)

### スキルアップ①② 自己表現スキル

F

株式会社ボイスクリエーションシクル  
代表取締役

さとう めぐみ  
佐藤 恵さん

自分の伝えたいことを相手にどう伝えるか。伝える内容と同時に、“伝え方”はとても大切な要素です。この講座では、声磨き®トレーニングを通して、相手に伝わる表現スキルを身につけます。



9/9  
(土)

### 講義④ 国立女性教育会館(NWEC)見学・ 理事長講話・ジェンダー統計

D

理事長

はぎわら こ  
秋原 なつ子さん

研究国際室長(併)  
主任研究員

わたなべ みほ  
渡辺 美穂さん

嵐山町の国立女性教育会館(NWEC)を訪れ、理事長の講話をお聴きするとともに、ジェンダー統計について学びます。



## 2022年度修了生の声 (アンケートより一部抜粋)

修了生を対象としたフォローアップ講座もあります

国や県の現状を理解することはもちろん、県内で同じジェンダー問題に意識をもって解決に向けて取り組もうとする皆さんに会い、つながれたことが大きな財産になりました。これからも上手く連携しながら目指す未来と一緒につくっていききたいと思います。(20代)

成果レポートの作成にあたっては、充実した講座や資料、フォロー体制に支えられ、成果物を作成できましたことを心より感謝いたします。今後、自分の地域や活動に講座での学びや気づきを活かして参ります。(30代)

様々な活動、意識を持っている方々と関わることができ、刺激をもらうことができました。今後も講習等に参加し、自己啓発に努めたい。私が関わることができることを模索していきたいと考えます。(50代)

## 1. 幅広く「地域の女性リーダー」を育成する事業

### 事例3 ～女性議員0から43.8%に～

小野市男女共同参画センター（兵庫県小野市）

## おのウィメンズ・チャレンジ塾

意思決定の場である公益性の高い活動、例えば、議会や審議会、自治会等に参画して活躍する女性リーダーを育成することを目的にした集中講座です。

### 実施の背景とこれまで

小野市は人口約5万人、兵庫県の中南部・東播磨のほぼ中心に位置しています。塾開設のきっかけは、平成19（2007）年の市議選で、それまで1人いた女性議員がゼロになったことでした。市長も「地域社会の発展には多様なニーズや意見の反映が不可欠」と危機感を抱き、女性の活躍推進を促す取り組みが始まりました。第1回は、当時全国最年少女性市長だった兵庫県尼崎市長の白井文さんらを講師に招いて、女性の政治参画の意義やプレゼン力等について学びました。市には当時すでに、女性の視点を活かしたまちづくりや、市政や地域社会への女性参画を目的とする「まちづくり女性リポーター」、市の各種女性団体が交流・連携してコミュニティづくりをし、男女共同参画社会の推進を図ることを目的とする「女性団体連絡協議会」が存在し、女性の参画を推進する下地があったことも、事業の実現に貢献しました。令和2（2020）年度までは市の事業でしたが、令和3（2021）年度からは男女共同参画センターが主催しています。

令和5（2023）年現在、小野市の女性議員比率は43.8%（定数16人中7人）で、修了生からのべ5名の市議が誕生しました。

## プログラムや事業の特徴

### （1）男女共同参画の視点を重視

男女共同参画センターが実施する意味を理解してもらうため、初回で男女共同参画に関する基礎知識を伝えています。初めて学ぶ方も多く、1回で理解することは難しいですが、その後の講座や修了後も続く参加者同士の交流を通じて、徐々に定着します。



## (2) 受講生同士の交流を促進

今年度新たに企画したことは、毎回最後に受講生同士の交流タイムを30分設けたことです。過去の講座において「自分の情熱を1分で語る」といったワークをしたことがあります。こうした場で質問攻めになり、必死に応えるという経験は自らを鼓舞します。また、想いを実現し活動している人を見ると「あの人だから」と思うことも多い中、初めは自分と同じような悩みを抱えていた話を聞くことで、「自分もやってみよう」と後押しされ、その勢いで新たな出会いがありNPOを立ち上げた人もいました。受講生自身はもちろん講師や職員も、セミナーの前と後で大きく変わることを実感しています。皆さんすでに力を持っているので、お互いを知って刺激し合うだけで、次の行動に踏み出せます。

## (3) 次世代育成に焦点

令和元(2019)年度から対象を20～40歳代に限定し、平日開催から土日開催に変えました。その結果「働く若い世代」の参加が増え、参加者の属性が似通うことで「グループ化」もよりスムーズになりました。該当しない世代の方には、年齢制限のない「女性のためのステップアップセミナー」を別途開催しています。こちらは30代～70代まで幅広い年齢層が参加しており、より「多様な考え」を知る機会となっています。

## (4) まずはテーマを決め、テーマに適した回数で実施

テーマに即して講座回数を決めますが、長期になるとハードルが上がり参加者確保が難しいため、平均3～5回程度で実施しています。テーマは過去の「チャレンジ塾」の流れや社会の関心等をもとに決めますが、統一地方選挙の前年度は「政治参画」に特化しています。令和4(2022)年度は「女性のための政治入門塾～出そう 出よう そして支えよう～」でした。「政治参画」に必要な知識・スキルは幅広く、参加者のモチベーションも高いため、例外的に9回の連続講座としました。

最近の人たちはアンテナが高く、すでに色々なことを学んでいるので、経験したことがないセミナーを提供できるよう、新しいテーマやキーワードを常に探しています。たとえば令和4(2022)年度ステップアップセミナーの「グラフィックレコーディング」は好評でした。地方の場合、首都圏や都市部で注目されているテーマが、必ずしもすぐニーズのある事業につながりません。しかしアンテナを張ってテーマや講師情報を集め、引き出しを増やしておく、いざという時に時宜を得た事業ができます。

## (5) 積極的に参加してもらうため、参加費を徴収

様々な事業を実施してきた経験から、参加費を有料にした方が受講が積極的になることがわかりました。そこで事業主体が市からセンターに移った令和3(2021)年度から、1回につき500円、4回講座の年度は参加費2,000円を徴収しています。

## (6) 若い世代に参加してもらうため、託児は無料

センターは、夢や想いを叶える場、地域の方々が交流を深める場として建設された、小野市う

るおい交流館エクラの中にあります。託児ルームもあり、参加費を有料化するにあたって、託児の有料化についても検討しましたが、子育て世代にこそ参加してほしい事業であることから、子育て世代を支援する意味も込めて託児は無料にしました。利用者は多く、託児の無料化が若い世代の参加を後押ししていると思われます。

## 令和5年度事業の概要

### 対象・定員

連続講座に参加意思のある北播磨地域に在住又は在勤の20～40歳代の女性、16名程度（先着順）

### 実施体制

本センター主催（単独開催）

### 事業評価の指標

参加者の満足度や感想

## 成果

修了生の有志による市民活動グループが、4つ誕生しました。男女共同参画の視点を活かした防災グループ、地元を盛り上げるためにマルシェを開催するグループなどが立ち上がり、個人的に古民家を改装して地域の人たちが集まれる場所を作ったり、NPO法人を設立し学校に通いにくい子どもの居場所を作るなど、多方面で活動が広がっています。

修了生5名が市議会議員になり、小野市初の女性議長も第1期修了生です。議会に女性が増えることにより、質問も多様になり、議会が活性化しています。

---

---

## 今後の課題・抱負など

令和5（2023）年度は参加者が少なかったため、「多様な参加者同士の交流」は難しい面もありました。しかし毎講座の最後に行う交流タイムで一人当たりの発言時間が増えたことから、「学びの振り返り」が深まりました。「参加者が少ないからこそ良い講座にしたい」という担当者の熱意は伝わることを実感するとともに、参加者が少数の場合の対策等、新たな学びを得ました。

---

### 小野市男女共同参画センター

所在地：兵庫県小野市中島町72番地小野市うるおい交流館エクラ内  
運営形態：公設民営、開館年：2005年、職員数：4人（兼務）  
運営者：NPO法人 北播磨市民活動支援センター





全9回を通じて学ぶ女性のための講座スタート！

女性議員って必要？

参加者  
募集中

# 女性のための政治入門塾

～ 出そう 出よう そして支えよう～

個人の問題だと思っていることは、実は社会の問題と大きく繋がっています。  
その問題を解決するためには、女性の声を意思決定の場に届ける必要があります。  
女性の政治参画を進めるために、私たちにできることを一緒に考えてみませんか。

第1回  
6/18(土)  
13:30-16:00

オリエンテーション  
はじめまして☆お互いを知るワーク  
& 私たちの暮らしをよくするために  
| 講師 | 松尾やよいさん(夢こらぼ主宰)

第7回  
9月中旬  
午後

議会の傍聴  
議会を覗いてみて気づく事(意見交換)  
| 会場 | 小野市役所

第2回  
7/2(土)  
13:30-15:00  
15:30-17:00

講演会「地域づくりにおける男女共同参画」  
北播磨で活躍する女性リーダーと交流しよう①  
| 講師 | 竹安栄子さん(京都女子大学学長)  
| 会場 | 三木市立教育センター

第8回  
10/1(土)  
13:30-15:30

北播磨で活躍する女性リーダーと  
交流しよう②  
| 講師 | 白井 文さん(前尼崎市長)  
| 会場 | 西脇市茜が丘複合施設 Miraie

第3回  
7/16(土)  
10:00-12:00

聞いて・見て・知って・納得！  
議会や選挙の仕組みを知ろう  
| 協力 | 小野市議会事務局・選挙管理委員会

第9回  
10/15(土)  
13:30-16:00

私たちの挑戦！  
女性の意見を・女性の想いを届けたい  
| 講師 | 松尾やよいさん(夢こらぼ主宰)

第4回  
7/23(土)  
13:30-16:00

議員さんへの質問を考える  
伝える技術「プレゼンカ」を高めよう  
| 講師 | 松尾やよいさん(夢こらぼ主宰)

トータルコーディネーター

松尾やよいさん(夢こらぼ主宰)



第5回  
8/6(土)  
13:30-16:00

小野市議会の女性議員と話そう  
トークミーティング会  
| 協力 | 小野市議会 女性議員の皆さん  
| コーディネーター | 松尾やよいさん(夢こらぼ主宰)

会場 小野市うらおい交流館エクラ 他

対象 テーマに関心のある女性

定員 10名程度

料金 3,000円

託児 10名(無料・要予約・1歳～小学3年生まで)  
※第2回・第8回は市外で開催のため別途相談

申込 チラシ内のQRコードから  
申込フォームを送信。もし  
くはチラシ裏面の申込書に  
ご記入のうえ、窓口・電話・  
FAXでお申込みください。

申込締切  
5/31(火)



公開講座 どなたでもご参加いただけます

第6回  
8/27(土)  
10:00-12:00

選挙カーも事務所も無し☆SNSで挑んだ  
異色の31歳(当時)女性議員誕生の物語  
| 講師 | 中村ひかりさん(松江市市議会議員)

主催 小野市・小野市男女共同参画センター・NPO 法人北播磨市民活動支援センター

## 2. 重要な社会課題をテーマとする事業

### (1) 政治分野における男女共同参画

#### 事例 4 ～幅広いリーダー育成から「政治参画」に特化～ 佐賀県立男女共同参画センター（佐賀県） 政治参画セミナー

暮らしと政治がつながっていることを意識し、意思決定の場における女性の参画の必要性等に気づくことを目的にしたセミナーです。

#### 実施の背景とこれまで

本センターでは平成21（2009）年度から平成27（2015）年度まで、審議会等の政策方針決定過程への女性の参画を促進することを目的として「女性のための政策参画セミナー」を実施していました。しかし平成30（2018）年に「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が公布・施行されたことをうけて、佐賀県から、政治分野における男女共同参画に関する事業の実施について依頼を受けました。そこで令和元（2019）年度から、「女性のための政策参画セミナー」で培った経験とネットワークを活かして、「政治参画」に特化したセミナーを実施しています。

## プログラムや事業の特徴

### (1) 啓発から人材育成へ

令和元（2019）年度の第一回目は、啓発を目的として県庁所在地・佐賀市と県内第二の都市・唐津市で講演会を開催しました。令和2（2020）年度は講義とパネルディスカッションを実施し、オプションとして佐賀市議会の一般質問を傍聴しました。県議会よりも市町議会の方が生活に密着していること、当時女性議員数が最も多かった（3名）ことから、佐賀市に協力を依頼しました。令和3（2021）年度からは、「人材育成型」にシフトし、3回の連続講座を女性限定で実施し、スピーチやプレゼンテーションの方法を学ぶワークショップ、グループワークによる政策企画等、スキル習得の要素を加えました。さらに、女性の政治参画には、周囲の理解・支援が必要となることから、令和4（2022）年度からは、男女問わず広く県民の方へ向けた公開講座を連続講座と併せて実施しています。

## (2) 基礎的な学びを提供し、さらなる行動へ橋渡し

県立の男女共同参画センターが「議員養成」プログラムを提供することは難しいため、女性の政治参画の必要性に関する学習や政策の企画、スピーチスキルの習得等、基礎的な学びとスキルを提供する場と位置づけています。立候補等、より具体的な行動を考えている人には、県内の特定非営利活動法人女性参画研究会・さがが主催する「さが・女性政治塾」を紹介しています。佐賀県は人口規模が小さいので、関連する機関・団体と役割分担しながら女性の政治参画を後押ししています。

本センターでは、地域活動をこれから始めたいと考えている女性を対象に「地域で活躍する女性のためのセミナー」も実施しています。こうしたビギナーズセミナーを修了した後、学びを深めるために「政治参画セミナー」を受講する人もいます。事業開始から5年を経て、もう少し勉強したい人は「政治参画セミナー」へ、さらなる行動を考える人は「さが・女性政治塾」へ、という流れができつつあります。

## (3) 経験とネットワークを活かした事業展開

地域の女性リーダーを幅広く養成することをめざした「女性のための政策参画セミナー」での経験とネットワークを活かしています。「女性のための政策参画セミナー」では、市町の担当課や関係機関・団体に企画段階からかかわってもらいました。「政治参画セミナー」ではこれらの市町や機関・団体に広報を依頼し、プログラム面でも、例えば、前述のとおり、佐賀市の協力によって議会の傍聴が可能になりました。

## (4) 政治参画に特化した事業の難しさ

「政治参画」セミナーはハードルが高いため、参加者の確保には苦勞しています。「政治」を身近に感じてもらうことが一番の課題で、そのための工夫を重ねてきました。例えば、政治参画を自分ごととしてとらえてもらえるように、チラシでは「わたし」をひらがな表記にし、「わたしサイズの政治参画」と銘打っています。

ビギナーズセミナーを修了後、「スピーチスキルの習得」に魅力を感じて「政治参画セミナー」を受講する人もいます。「話すこと」に苦手意識をもつ女性は多く、一定のニーズがあるため、「女性の活躍推進佐賀県会議」（県内の経済団体を中心に組織された、女性の活躍を推進していくプロジェクト）や県内大学のポータルサイトにも、「スピーチスキルの習得」をアピールして掲載してもらいました。しかしあくまで「政治参画」セミナーです。「参加しやすさ」を追求するあまり「政治参画」という目的が希薄にならないよう、一般的なリーダー育成セミナーとの差別化を常に意識しています。

## (5) 政治参画に特化した事業の意義

県立の男女共同参画センターが政治参画に取り組むことで、市町や市町の関係機関・団体等の取組が後押しされます。たとえば令和元（2019）年度に「政治参画セミナー」を共催した唐津市や、前身の「女性のための政策参画セミナー」を共催した鳥栖市で、政治参画に関する講演会やセミナーが開催されました。

本センターが政治参画に取り組んでいることが徐々に浸透しており、市町での女性会議の開催や女性議員比率の上昇、女性議員のネットワーク化等、女性の政治参画に関する県内の情報が集まるようになってきました。女性の政治参画を推進する地域の拠点として、認知されつつあります。また、特定非営利活動法人女性参画研究会・さがと日常的に情報交換し、協力する関係性が築けていますので、「政治参画セミナー」を経て「さが・女性政治塾」に参加するという流れができれば、佐賀県の女性の政治参画推進においても有意義だと思います。

#### (6) 若年層に参加してもらう工夫

当初は関係団体からの参加が多く、50～70代が中心でした。しかし「暮らしと政治」は、子育て世代を含め若年層にこそ考えてほしいテーマです。そこで令和4（2022）年度の公開講座は、県内大学のポータルサイトに掲載してもらいました。令和5（2023）年度の公開講座には佐賀女子短期大学の協力を得たこともあり、大学生の参加もありました。また子ども連れでも受講できるように、保育は無料にしています。

### 令和5年度事業の概要

#### 対象・定員

- ・ 関心のある女性（原則、全講座参加できる方）
  - ・ 15名程度（定員になり次第締切）
- ※公開講座は、「どなたでも」「定員200名（定員になり次第締切）」

#### 実施体制

本センター主催（単独開催）

※ただし公開講座は、特定非営利活動法人女性参画研究会・さがと共催、佐賀県女性議員ネットワーク及び佐賀女子短期大学が協力

#### 事業評価の指標

- ・ 定員充足率、参加者満足率

---

---

## 成果

令和元年度から令和5年度までの参加者満足率の平均は、91.6%に達しています。また、修了生から自治会役員や市議会議員が誕生しました。

県議会（令和2年11月定例会）で、「政治参画セミナー」に一定の評価がなされるとともに、県として女性の政治参画を推進するため、人材育成にどのように取組むかが問われました。社会的期待の大きさを感じます。

---

---

## 今後の課題・抱負など

女性の政治参画への関心を高めるとともに、県内に点在している「政治に関心をもつ女性」に参加してもらうにはどうすればよいか、これからも考えていきます。各市町で女性議員が増えており、その周りに女性の支援者もいるはずですが、女性の政治参画に直接的にかかわる層の参加がありません。修了生のネットワーク化も今後の課題です。

---

佐賀県立男女共同参画センター

所在地：佐賀市天神3-2-11

運営形態：公設民営、開館年：1995年、職員数：8人

運営者：公益財団法人佐賀県女性と生涯学習財団





令和5（2023）年度チラシ（表面）

令和5年度 政治参画セミナー【連続講座】



私たちは持続可能な開発目標支援（SDGs）をしています

# わたしサイズの 政治参画

女性限定  
連続講座  
(参加無料)

## わたしと暮らしをアップデート

暮らしの中で感じるモヤモヤを  
わたしと社会を変える力につなげましょう！  
わたしと暮らしをアップデートするために、  
**わたしサイズ**で始める政治参画の方法を学びます。

12/2  
(土)  
13:30~16:00

STEP  
01

### 「わたしの『モヤモヤ』を見える化する」

暮らしの中の課題や「モヤモヤ」に、ジェンダー平等の視点でアプローチする方法を考えます。

講師 西川 有理子さん（一般社団法人パリテ・アカデミー事務局長）

12/9  
(土)  
13:30~16:00

STEP  
02

### 「わたしの思い・考えを伝える話し方」

会議や方針決定の場で必要となる自分の考えや意見を効果的に伝える話し方を学びます。

講師 内田 信子さん（学校法人旭学園理事長）

1/13  
(土)  
13:30~16:00

STEP  
03

### 「わたしの思いを届けるプレゼンテーション」

暮らしの中の課題や「モヤモヤ」を変えるために、わたしサイズの解決策をプレゼンする方法を学びます。

講師 西川 有理子さん（一般社団法人パリテ・アカデミー事務局長）

【会場】アバンセ 3階 美術工芸室(佐賀市天神三丁目2-11)

【対象】関心のある女性(原則、全講座参加できる方) 【定員】15名程度(定員になり次第締切)

【一時保育】生後6か月から就学前まで・若干名、11/22(水)までに要申込み・無料

【申込方法】

右下の2次元コードの申込フォーム、または、電話・メール・FAX・アバンセ窓口  
裏面の申込書をご利用ください。

申込・  
問い合わせ

佐賀県立男女共同参画センター(アバンセ)

〒840-0815 佐賀市天神三丁目2-11

TEL 0952-26-0011 FAX 0952-25-5591 メール danjo@avance.or.jp



(申込フォーム)

## 2. 重要な社会課題をテーマとする事業 (2) 自治会における男女共同参画

### 事例5 ～「女性が頑張る」から 「男女が共に進める体制づくり」へ～

秋田県北部男女共同参画センター（秋田県）

地域の女性リーダー育成事業（令和2～4年度）

地域の女性リーダー応援事業（令和5年度）

地域の活性化において男女共同参画の視点が必要であることを伝え、地域における施策・方針決定過程に参画できる女性リーダーを育成し、女性の活躍を推進しています。

#### 実施の背景とこれまで

秋田県では自治会役員の女性比率が低く、県が令和元（2019）年度に実施した調査でも、9割の自治会が女性役員不在で、自治会の担い手不足も深刻なことが明らかになりました。そこで令和2（2020）年度に、3つの県立男女共同参画センター（秋田県北部／中央／南部男女共同参画センター）に自治会を焦点とする「女性リーダー育成事業」が委託されました。3か年の委託事業だったので令和4（2022）年度に終了しましたが、引き続き、関係機関との連携を取りながら地域における男女共同参画推進に取り組むことにし、令和5（2023）年度に「地域の女性リーダー応援事業」を実施しました。

これまでの自治会運営はいわゆる「男性社会」で、年齢や性別に偏りが見られ多様な視点が圧倒的に不足していました。男女の役割が明確に分かれており、「女性は一步下がってフォローする役目」という雰囲気も強いです。まずは女性に一步前を出てもらい、男女と一緒に並ぶことが重要ですが、「一步前に入る」ことが難しいのが現実です。

#### プログラムや事業の特徴

##### (1) 「自治会運営アドバイザー」を委嘱

県から事業を受託する際、「自治会運営アドバイザー」を3名置くことを示されました。そこで能代市上町自治会長／自治会連合協議会会長（女性）、大館市御坂町内会会長（男性）、秋田県北エヌピーオー支援センター理事長（男性）に委嘱し、講演やファシリテータ等を依頼しました。

男女両方の視点から自治会における男女共同参画推進の必要性について伝えられるよう、男女の自治会長を迎えました。女性が自治会に参画する必要性や利点等について、経験に基づく現在進行形の講演が特徴です。

## (2) テーマは「見える化」「人つなぎ」「巻き込み力」

自治会活動の広報活動はあまり重要視されてこなかったため、防災や除雪、見守り等、住民の暮らしを守る貴重な役割を果たしていることが「見える化」されていませんでした。しかし、女性を含め様々な人が地域に尽力していることを「見える化」することで、主体性を持って自治会を盛り上げようという機運が高まります。また住民同士がつながってこそ自治会活動に参加してもらえるので、「人つなぎ」も重要です。さらに、自治会とあまり接点がない若い世代に関心をもってもらうために「巻き込み力」が求められます。そこで「自治会運営アドバイザー」には、これら3つの観点で講演を依頼しました。

## (3) 自治会の男女共同参画を推進する工夫

地縁が強い地域で事業を進めるには、「どのような順番で、誰に話を通すか」が重要でした。秋田県北部は9市町村からなり、センター職員にとって「知る人がいない地域」も多くあります。そこで親戚や知人等インフォーマルな関係性を通じて、会うべき人を紹介してもらいました。男女共同参画センターが「地域に入り、地域を知る」うえで、職員だけでは不可能です。様々な人の協力が必要で、特に市町村の自治会担当者との連携は必須です。センター職員が足を運んで「秋田県が推進している事業」と言っても、自分事になりにくいものですが、市町村の担当者と一緒に進めていることが伝わることで理解が得られたりします。また、チラシ・ポスターに共催・後援等で、市町村名を入れさせていただき、連携していることが見えるように工夫しています。

## (4) 男女共同参画の視点をさらに広げるために

当初は自治会関係者の理解を得ることが難しく、「女性には任せられない」という雰囲気もありました。しかし3年間の取組を通じて「何とかして今の状況を変えていかなければ」といった意識に変わり、前向きに参画してくれるようになりました。このような変化を広げるため、令和5(2023)年度「地域の女性リーダー応援講座」は、これまで男女共同参画推進の視点を届けられていなかった地域にピンポイントで入り事業を開催しました。「事業」には参加者「数」が求められがちですが、関心の強い自治会に集中的に関わる手法を取り入れて、伴走支援を行うことで、目に見えて変化すると思います。

## (5) 「女性リーダー育成」から「男女共同参画推進」へ

「地域の女性リーダー育成事業」と銘打っていることから、当然のことながら「女性リーダー育成」に重きをおいていますが、リーダーに向いていない、もしくはリーダーになりたくないと感じる女性から遠慮される面がありました。しかし試行錯誤しながら事業を進めるなかで、あるべき姿は「女性が頑張る」ではなく「男女が共に創りあげる」だと気づき、講師にもそのような視点を取り入れた講演を依頼するようになりました。当初は「女性自治会長を増やすにはどうすれ

ばよいのか」まったく想像できませんでしたが、今では男女共同参画の視点から「男女が共に進める体制づくり」を進めることで、スモールステップでおのずと増えていくと期待しています。

## 1. 地域の女性リーダー育成事業（令和2～4年度）

### 令和4年度事業の概要

#### 主な事業

- ・自治会運営への女性参画を目的とする「地域の女性リーダー養成塾」を開催  
9月24日（能代市中央公民館）、9月27日（上小阿仁開発センター）
- ・地域では孤立しがちな女性役員たちが悩みや想いを共有し、つながることを目的とする「地域の女性リーダー交流会」を開催  
10月30日（北秋田市民ふれあいプラザコムコム）
- ・「地域の女性リーダー養成塾」等に参加した自治会から打診され、「フォローアップ研修」を開催  
2月10日（小坂町七滝公民館）
- ・3年にわたる事業の概要と、地域で活躍する女性たちについて紹介する『女性自治会長等の活動事例集』を作成

#### 対象・定員

「地域の女性リーダー養成塾」の主な参加者は自治会役員（会長、副会長等）だが、婦人会関係者や民生委員等も参加。「地域の女性リーダー交流会」は、県北の各市町村から役員等を担っている女性が参加。

#### 実施体制

「地域の女性リーダー養成塾」及び「地域の女性リーダー交流会」は、開催地の自治体と共催

#### 事業評価の指標

- ・定員充足率、参加者の満足度

## 2. 地域の女性リーダー応援事業（令和5年度）

### 令和5年度事業の概要

#### 主な事業

- ・「地域の女性リーダー養成塾」を開催  
12月3日（秋田県北部男女共同参画センター）
- ・「地域の女性リーダー応援講座」を開催  
12月15日（北秋田市合川公民館）、12月18日（能代市ニツ井公民館 ニツ井分館）

#### 対象・定員

「地域の女性リーダー養成塾」は「地域で様々な活動をする女性、自治会役員、あきたF・F推進員等」。  
「地域の女性リーダー応援講座」は、自治会役員等の地域活動に携わっている女性が参加。

#### 実施体制

「地域の女性リーダー応援講座」は、開催地の自治体が後援

#### 事業評価の指標

- ・定員充足率
- ・参加者の満足度



---

---

## 成果

「自治会運営アドバイザー」に県内外の地域から講演依頼があり、自治会運営にも男女共同参画の視点が大切であることが浸透してきたと感じます。事業に参加した女性で自治会役員として活動を始めた人もいます。令和5年度「地域の女性リーダー養成塾」では、それまでの3年間に秋田県北地域で自治会における男女共同参画推進に関わった人や、日頃から男女共同参画センターに関わる人が揃い、同窓会のような雰囲気になり、改めて女性たちのネットワーク構築スキルの高さを感じました。一連の事業が広がり、つながってきた結果です。また、事業を通じて、センターと、地域で活躍するパワフルな女性たちが繋がりを持てたことが次につながる大きな成果といえます。

---

---

## 今後の課題・抱負など

施策・方針決定の場で、良いアイデアをもっているのに発言できない女性は少なくありません。会議慣れしていないため必要以上に緊張したり、気後れしたり、また、女性の意見を聞いてもらえないと思いついていたりします。地域に尽力する女性の「見える化」やネットワーク化による意識の醸成を図ってきましたが、今後はリーダーになるためのもう一歩進んだ実践的なスキルアップ（プレゼン力やスピーチ力）が必要です。

地域活動は様々な連携で成り立っており「変化」にはエネルギーが必要です。4年間同テーマで事業を展開してきた男女共に「心の変化」が起きつつありますが、次なる課題は、これまでのやり方を前提とした社会構造の「変化」に対してどうアプローチしていくかではないでしょうか。地域のことを想い活動してきた人の気持ちも大切にしながら、多くの人を持っている「～べき」というアンコンシャス・バイアスとの折り合いが必要だと思えます。

---

秋田県北部男女共同参画センター

所在地：秋田県大館市字馬喰町48-1

運営形態：公設民営、開館年：2002年、職員数：4人

運営者：特定非営利活動法人 秋田県北エヌピーオー支援センター

## 2. 重要な社会課題をテーマとする事業

### (3) 防災分野における男女共同参画

## 事例6 ～有志の勉強会から府市連携事業へ～

### 京都市男女共同参画センター（京都府京都市）

# 防災リーダー育成事業

男女共同参画の視点から災害に備えるために「女性防災リーダー養成講座」をスタート。男女共同参画の視点を持つ人材を育成し、防災分野への女性の参画を促進しています。

### 実施の背景とこれまで

京都市は大きな災害に見舞われることが少なく、防災が自分事になりづらい状況でしたが、東日本大震災後、育休取得中の女性の集まりで、災害時の安全確認や避難体制について不安の声があがりました。そこで、平成25（2013）年に、センター周辺の消防団や社会福祉協議会等で活躍される女性たちに声をかけ、防災分野の行政職員や被災地で女性支援された団体の協力を得て、女性の視点で地域の防災を考える有志の勉強会を始めました。

平成26（2014）年度から、地域防災に女性が参画することを目指して「女性防災リーダー養成講座」を開始。防災分野で男女共同参画を実現するには、男性もその意義を理解する必要があるため、平成29（2017）年度からは対象を男女に広げました。平成30（2018）年度に府市連携事業事業名を「きょうと男女共同参画センター防災事業」とし、令和2（2020）年度からは、府内11の男女共同参画センターと共催で教材づくりに着手、翌年度に「きょうとみんなの防災カード」を発行しました。現在は、京都府内の各男女共同参画センターが「きょうとみんなの防災カード」を用いた研修を実施しています。

## プログラムや事業の特徴

### (1) 継続した学習機会の提供

男女共同参画の理解や女性リーダーの活躍を促すためには、単年度で終えず、継続した取組する必要があります。

災害時に起こることや地域の防災・減災を支える仕組みを理解し、女性のニーズや多様性に対応できる視点をアップデートするために、参加者が共に学び、考える機会を継続して提供してい

ます。参加者のほとんどは意欲を持ち、すでに地域で活躍されているため、防災の場でもリーダーシップを発揮できると認識してもらうことや、平時から男女共同参画の視点を持ち行動することの必要性を理解してもらうことを大切にしています。

## (2) 地域で活用できる啓発ツールの提供

事業を準備する中で聞こえてきたのは、「防災訓練に参加しない人が多い」「防災について話し合うきっかけがない」「何から始めればよいかわからない」という地域の声でした。そこで、男女共同参画の視点で災害に備えるきっかけとして、家族や地域の防災訓練等で気軽に取り組める教材を作成し、地域での自律的な活用を促しました。

### 「KYOTOわたしの防災ノート」の発行（平成25年度）

有志の勉強会「女性の防災力向上ミーティング」では、女性の立場で災害時の備えや、地域の防災・減災について話し合い、その成果物として「KYOTOわたしの防災ノート」を発行しました。災害時の備えも男女共同参画も“暮らしの中で当たり前を整えたい”という思いから、“暮らすように、備える”をコンセプトに、手に取った人が家族や身近な人と一緒に、災害時に起こることや日常生活を点検して避難生活に備えられるよう、被災時の困難や行動の確認、女性の視点の持ち出しグッズ、性暴力の防止等について掲載しました。完成前に地元の新聞で紹介されたところ、関心をもつ地域の人たちがセンターを訪ねてくれました。また、雑貨店や書店等の事業所から、防災関連のコーナーに置きたいとの問合せもありました。発行から10年、これまで20,000部を発行し、防災イベントや地域の集まりなどで、作成に関わった人や講座の参加者、防災担当者などが自律的に活用されています。取組みの広がりには、自分にできることを継続する人の存在が欠かせません。こうした人材こそが地域のリーダーであり、災害を乗り越える大きな力になります。

### 「きょうとみんなの防災カード」を発行（令和3年度）

府市連携を機に、府内11の男女共同参画センターと共催で、防災訓練や身近な集まりで気軽に取り組める教材づくりを始めました。『災害対応力を強化する女性の視点～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～』（内閣府）を参考に、災害時のさまざまな困りごとに関する52の問いを「カード」にしました。京都市防災危機管理室や各区役所等に配布し、希望者に販売しています。府内の各男女共同参画センターや出前講座で「きょうとみんなの防災カード」を使ったワークショップ等を実施しています。

## (3) 関係機関との連携

事業立上げ時に、避難所開設に携わる区役所の防災担当者や防災危機管理室、消防局等に相談することで、自主防災会に所属する人への周知がスムーズになります。また、災害時の女性支援を行う団体とのつながりは、生きた学びを得ることができます。目的を共にする男女共同参画センターとの連携は、課題の共有やアイデアの創出、広域的な取組につながりました。

また、令和6年2月には、市の災害ボランティアセンター、福祉ボランティアセンターと共同で、福祉や当事者支援に関わる人、災害時のボランティア登録をしている人等を対象に、「多様な視点



で地域の防災を考える：福祉・多様性・男女共同参画の視点から」と題した講座を実施し、男女共同参画や当事者の視点を大切にした支援を学ぶ機会を設けることもできました。

#### (4) 防災分野で女性リーダーを育成する難しさ

少しずつ改善されてはいますが、防災分野は男性中心の意識や慣行が根強く、決定権を持つメンバーが男性のみ、または女性が入っていても、従来の風土が影響して発言力が小さくなりがちです。男女共同参画の意義が浸透していない場では女性は活躍しにくく、女性の参画が多様な視点を反映する方向ではなく、担当領域の性別役割を強化する可能性もあります。だからこそ、防災分野を主に担う人に、女性が参画することの意味を正しく理解してもらう必要があります。

#### (5) 女性リーダーが活躍しやすい環境づくり

男女共同参画の理解や女性リーダーの必要性を地域に浸透させるために、出前講座のテーマに「防災と男女共同参画」を加え、地域での理解促進につなげています。また、総合防災訓練に男女共同参画センターのブースを設け、防災分野の職員や災害時の支援団体、地域で活躍する市民に男女共同参画センターの取り組みを紹介することで、女性リーダーの活躍を後押ししています。

## 令和5年度事業の概要

### 対象・定員

- (1) 「きょうと男女共同参画センター防災事業 講演&『きょうとみんなの防災カード』ワークショップ」(11月19日)は、「男女共同参画や防災に関心のある方 30名(先着順)」
- (2) 京都市災害ボランティアセンター、京都市福祉ボランティアセンターとの連携事業「多様な視点で地域の防災を考える」(2月10日)は、「地域活動に従事している方やボランティア、防災に関心のある方 50名(先着順)」

### 実施体制

- (1) 「きょうと男女共同参画センター防災事業」(11月19日)
  - 主催：京都府男女共同参画センター、京都市男女共同参画センター
  - 共催：福知山市、舞鶴市、綾部市、宇治市、城陽市、向日市、長岡京市、八幡市、京田辺市、京丹後市、木津川市の男女共同参画センター
- (2) 「多様な視点で地域の防災を考える」(2月10日)
  - 主催：京都市災害ボランティアセンター、京都市男女共同参画センター、京都市福祉ボランティアセンター
  - 共催：各区ボランティアセンター

### 事業評価の指標

- ・定員充足率、参加者の満足度・理解度

---

---

## 成果

事業に参加した人の中には、地域課題を解決するための団体やグループを立ち上げた人、センターの講座の企画に関わった人、自治会役員や防災委員になった人、消防分団長から京都市防災会議専門委員となり区の消防団副団長を務める女性等、さまざまなかたちで地域の防災に関わり活躍されています。

また、啓発ツールの活用にとどまらず、若い世代に新たな展開もありました。『KYOTOわたしの防災ノート』を受けて、京都府ガールスカウト連盟では、女子中高生の視点にたつ「防災ノート」を作成されました。この取組みで、少女と女性の視点に立ちコミュニティをよりよくするための優れた活動を表彰する『第1回コミュニティアクションチャレンジ100アワード』（ガールスカウト日本連盟）においてコミュニティアクション賞を受賞されています。

---

---

## 今後の課題・抱負など

自治体の防災訓練や大学など、様々なところから「男女共同参画の視点の防災」についての講演やワークショップを依頼されるようになりました。

災害時にすべての人の人権が尊重されるためには、男女共同参画による多様な視点の必要性とともに、ハラスメントや性暴力についても学び、地域で対等な関係づくりに取り組むことも必要です。防災をきっかけに、男女共同参画の各課題についても幅広く啓発していきたいと考えています。

---

京都市男女共同参画センター

所在地：京都市中京区東洞院通六角下る御射山町262番地  
運営形態：公設民営、開館年：1994年、職員数：11人  
運営者：公益財団法人 京都市男女共同参画推進協会

令和5（2023）年度「多様な視点で地域の防災を考える：福祉・多様性・男女共同参画の視点から」チラシ（裏面）

# 多様な視点で 地域の防災を考える

一福祉・多様性・男女共同参画の視点から一

## PROGRAM

### レクチャー

- 「男女共同参画の視点の防災」
- 「福祉、障害者支援の視点から」
- 「セクシュアルマイノリティ当事者の視点から」

### パネルディスカッション グループトーク

## PROFILE



### 斉藤 容子（関西国際大学客員教授）

大学卒業後、（特活）CODE海外災害援助市民センターにて海外の被災地での復興支援（アフガニスタン、イラン、スリランカ等）、国際連合地域開発センター（UNCRD）防災計画兵庫事務所で研究員等を務める。現在は、人と防災センターリサーチフェロー、関西国際大学客員教授、兵庫県立大学客員研究員として研究活動に従事している。



### 武山 世里子（社会福祉法人ミッションからしだね）

平時には、「障害者地域生活支援センター」で、障害のある方の相談支援を行う。発災時は、災害支援団体と連携し、被災地で在宅避難をしている方々の支援に関わってきた。京都市東部障害者地域自立支援協議会の災害部会のメンバーとして、障害のある方々を災害から守る仕組みづくりに取り組んでいる。



### 大久保 暁（暁project合同会社CEO）

トランスジェンダー当事者。学生時代はバスケットボール選手として活躍。戸籍変更前、保健体育の教員を9年間務める。戸籍変更後は男性として就職し、女性と結婚し家庭を持つ。現在は、LGBT当事者として講演活動も行っている。

### 京都市男女共同参画センター ウィングス京都

性別にかかわらず、誰もが個性と能力を発揮できる社会を目指す、まちの拠点です。日常生活の悩みや暴力にまつわる相談、講座、居場所づくりなど、さまざまな取り組みを行っています。

『KYOTOわたしの防災ノート』『きょうとみんなの防災カード』など、男女共同参画の視点を大切にしながら、防災ツールも発行しています。



### 京都市災害ボランティアセンター

「災害ボランティア活動」とは被災者の生活支援、生活再建など被災者に寄り添うボランティア活動です。平時には啓発や人材育成に取り組み、発災時にはボランティアの受け入れや、活動調整を行います。



### 京都市福祉ボランティアセンター

人に優しく、災害に強い、福祉のコミュニティづくりを目指し、ボランティア・福祉活動の進行をはかるため、ボランティア活動の啓発や参加の促進、ネットワークづくり、環境整備などの取組を行っています。



主催：京都市災害ボランティアセンター

（運営：京都市、社会福祉法人京都市社会福祉協議会、特定非営利活動法人きょうとNPOセンター）

京都市男女共同参画センター ウィングス京都（運営：公益財団法人京都市男女共同参画推進協会）

京都市福祉ボランティアセンター（運営：社会福祉法人京都市社会福祉協議会）

共催：各区ボランティアセンター

### 3. 「地域の女性リーダー」育成に伴う課題解決のヒントになる事業

#### (1) 高度な学びを提供

## 事例7 ～グローバルに考え、ローカルで行動する～

徳島県立男女共同参画総合支援センター（徳島県）

## とくしまフューチャーアカデミー

政策・方針決定過程への女性・若者の参画機会の更なる拡大を図るため、人材発掘及び人材育成機能を備えた実践の場を創設し、女性活躍に向けた研修を開催するとともに、育成した人材が活躍できる機会を提供しています。

### 実施の背景とこれまで

徳島県では、男女共同参画社会の実現に向け、政策・方針決定過程に女性や若者が参画する機会の拡大が必要であることから、女性・若者人材の発掘と育成機能を備えたりカレント教育プログラムを実施することとし、平成30（2018）年度に初めて「とくしまフューチャーアカデミー」を開催しました。令和元（2019）年度及び令和2（2020）年度には、ライフステージや社会経験が似通った者同士が、お互いに影響を与え合って学びを深めることができるよう年代別（主に39歳未満／主に40歳以上）に2つのコースを設けることとし、講師・プログラムを異なる内容にしました。「39歳未満」には自己実現の段階と位置づけて「自己実現と社会貢献」、「40歳以上」には、自己実現の次なる段階であるとして「公共政策の学び」をテーマにしました。

さらに令和3（2021）年度からは、女性が活躍する機会を拡大するため、デジタル知識や技術を用いて社会に変革を起こす人材の育成を目指した「女性DX人材育成プログラム」を別途立ち上げており、「とくしまフューチャーアカデミー」はプログラムを一本化し、広く社会情勢や地域課題について学ぶ「公共政策」をテーマとしています。

## プログラムや事業の特徴

### (1) 公共政策に関するグローバルな学びと実践的スキルの習得

事業名称に「アカデミー」とあるように、公共政策や社会の仕組みについて深く専門的な学びを提供しています。目的は「公共的な場」で活躍できる人材育成なので、徳島県という「地域」

に限定せず、国際的な視野を身につけることを意図しています。

知識を得るだけでなく、「課題解決に向けて考える力」「自らの意見を適切に言う力」「人とつながる力」も養成しています。最終回では今後の活動プランについてプレゼンテーションし、日頃の講座でもグループワークや発表の機会が多くあります。プレゼンテーションのコツについて、専門家から個別指導を受ける機会も設けています。

## (2) 「リフレクション」による学びと関係性の深まり

講座とは別に、毎回「リフレクション(受講生同士による振り返り)」を行っています。令和5(2023)年度は、講座があった翌週の金曜日にオンラインで1時間開催しました。出席は任意ですがほぼ全員が参加し、少人数のブレイクアウトルームで意見交換した後、メインルームに戻って各グループの話し合いを共有します。

講座を欠席した人のために、講義内容等を共有することが主な目的ですが、学んだことを自分の言葉で伝えることで理解が深まり、新たな気づきが促されます。本講座より少人数で個人的な話がしやすい雰囲気なので、役に立てたという自己肯定感や仲間意識も醸成されます。

## (3) 共感し、励まし合う関係性

講座内でのグループワークに加えて、毎講座後のリフレクション、プレゼンテーションやレポートの準備等を通じて、受講生同士のつながりが強まります。互いの気づきや感想をよく聞き、共感したことや新たに気づいたことを伝え合うなかで、「支え合ってここまで来た」「みんなで頑張ろう」といった想いが生まれます。半年にわたる長期講座ですが、途中で辞める人はほとんどいません。横の連帯が強く、その強さを基盤に、各年度の修了生が縦につながっています。

## (4) 修了後も実践を後押し

政策・方針決定過程への参画拡大が目標なので、了承を得られた修了生は県の人材リストに登録します。県や市町村の担当課は審議会委員等の候補選定をする際に人材リストを閲覧可能です。

## (5) 受託団体によるさらなるエンパワーメント

今年度の受託団体(特定非営利活動法人GWEI)には、多くの過去の修了生も入会しています。「とくしまフューチャーアカデミー」を受講する側から企画・運営する側に移り、講師選定や企画書の作成、当日の司会やファシリテーター等を担います。

## 令和5年度事業の概要

### 対象・定員

- ・チラシに「向上心と利他心溢れる女性や若者」対象であることを記載。
- ・定員20名程度

### 実施体制

主催：徳島県 受託者：特定非営利活動法人GWEI

※広報は県及び受託者、会場は主に徳島県立男女共同参画総合支援センターを利用、当日の運営は受託者

### 事業評価の指標

- ・修了者数

## 成果

「人前でプレゼンなんて、絶対に無理」と言っていた人も、「自主練しよう」といった声が自然にでてくる関係性と専門的なトレーニングによって後押しされます。多くの修了生が修了生同士の関係性を築き、そこから更なる活動が生まれます。審議会委員や市議会議員になった人、起業した人、団体を立ち上げた人、管理職に進んだ人等、様々にキャリアアップしています。

## 今後の課題・抱負など

徳島県は審議会等委員の女性比率が全国第1位（※）となるなど、女性・若者の政策・方針決定過程への参画の促進に向け、成果を得られています。しかし歩みを止めるとすぐに下がってしまう恐れがあるので、今後も人材育成を続け、徳島県に多様な人材を増やしていきたいです。

（※）内閣府「地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況（令和5年度）」  
審議会等委員への女性登用の目標（都道府県・政令指定都市）

徳島県立男女共同参画  
総合支援センター

所在地：徳島市山城町東浜傍示1-1アスティとくしま2階  
運営形態：公設公営、開館年：2006年、職員数：7人  
運営者：徳島県

令和4（2022）年度チラシ（裏面）

## Tokushima Future Academy 2022



**10/10**  
オンライン開催  
(月・祝)  
定員 50名 13:00～16:00

**【1部】** オリエンテーション

TFA 2022 オープニングスピーチ  
**もはや昭和ではない**

講師：衆議院議員 野田聖子  
前 内閣府特命担当大臣（地方創生・少子化対策  
男女共同参画）女性活躍、こども政策、孤独・孤  
立対策担当大臣

**【2部】**

TFA 2022 オープニングスピーチ  
**変化の時代を迎えたあなたのために！  
未来を変えるTFAの学び**

講師：笠井誉子  
株式会社「のくろ」コラーレネット代表取締役  
特定非営利活動法人 徳島の女性を元気にする会  
理事長

**Vol. 2**  
11/23 (水・祝)  
13:00～16:00  
定員 20名

**ようこそ、エンパワーメントの旅へ**  
～知っておきたい基本知識～

各国の男女格差を表す「ジェンダーギャップ指数」が G7 で最下位である日本。社会的構造の課題や背景にある無意識の偏見に気づき、自分も地域も社会もエンパワーメントしていくマインドを手に入れましょう。

場所：アスティ&くしま 1 階 第 2 会議室  
講師：大崎麻子  
Gender Action Platform 理事  
関西学院大学客員教授



**Vol. 3**  
12/18 (日)  
13:00～16:00  
定員 受講生 30名、一般参加 30名

**未来を創るための起業家的思考と行動法則**  
\*Failure is Good! Change Your Mindset\*

日本は、「失敗を恐れ、チャレンジしない」という人の割合が世界で最も高いというデータがあります。起業教育ランキング連続 29 年全米 1 位のバブソン大学のアントレプレナーシップを学び、失敗を経験値に変え行動を起こしていきける人財をめざします。

場所：アスティ&くしま 3 階 第 1 特別会議室  
講師：山川恭弘  
バブソン大学アントレプレナーシップ准教授 / 東京大学教授 / ベンチャーアカデミー東京代表理事 / CICJ アハンプレゼンツ / JWLI エグゼクティブコーチ



**Vol. 4**  
1/7 (土)  
13:00～16:00  
定員 20名

**女性と経済**  
これからの女性のキャリアとリーダーシップ

働く女性の課題とは何でしょうか？ 自らの現状をはじめ、女性活躍先進国の事例や他県の事例から、課題解決策を考えます。地域の中小企業の DX 化、女性管理職の登用、賃金格差は正などジェンダーギャップ解消について、経済という観点から学びます。

場所：ときわプラザ 第 6 会議室  
講師：小安美和  
株式会社 Will Lab 代表取締役 CEO



**Vol. 5**  
2/19 (日)  
13:00～16:00  
定員 20名

**女性と政治**  
～みんなで地域を元気にしよう～

日本の政治分野におけるジェンダーギャップ指数は、他の項目と比べて特に低い値となっています。女性の政治参画に対する意識や阻害する要因を学びながら、女性の社会参画・政治参画の必要性への学びを深めていきます。

場所：ときわプラザ 学習室  
講師：三浦まり  
上智大学法学部教授  
パリティ・アカデミー共同代表



**Final Presentation**  
3/4 (土)  
13:00～16:00  
定員 受講生 20名、一般参加 15名

**Final Presentation**  
「わたしの未来 地域の未来」

学びの成果として、プレゼンテーションを行います。テーマは「わたしの未来と地域の未来」。今後のビジョンやアクションプランなどを 1人2分で発表します。その後、TFA DX コースの受講者を含めた交流会を開催します。

場所：ときわプラザ 学習室



Tokushima Future Academy 2022

### 3. 「地域の女性リーダー」育成に伴う課題解決のヒントになる事業

#### (1) 高度な学びを提供

#### 事例8 ～2年の調査研究を経て市長に政策提言～

薩摩川内市男女共同参画センター（鹿児島県薩摩川内市）

女性チャレンジ委員会（平成27年度～令和4年度）

エンパワーメントセミナー（令和5年度）

地域課題の解決に向けた地域づくり事業を立案するための調査研究活動を通して、地域課題を解決し、地域で活躍できる人材を育てるとともに、意思決定過程への参画に要請される力量を形成します。

#### 実施の背景とこれまで

平成16（2004）年に1市4町4村が合併して、新たに「薩摩川内市」が誕生しました。女性の声を広く市政に反映したいという初代市長の意向もあって、薩摩川内市男女共同参画基本条例にもとづき、平成17（2005）年度に「女性50人委員会」が設置されました。平成27（2015）年度には活動のさらなる充実を図るため設置要綱が一部改正され、名称も「女性チャレンジ委員会」に改められました。

「女性50人委員会」「女性チャレンジ委員会」とともに市内48の地区コミュニティ協議会から推薦された委員で構成され、「地域の代表」と位置づけられていました。しかし「参加者一人ひとり」の学びとエンパワーメントへ方向転換することとなり、令和5（2023年）年度に「エンパワーメントセミナー」と改称して新たなスタートをきりました。長らく市の事業でしたが、令和3（2021）年1月に薩摩川内市男女共同参画センターが設置されたことをふまえ、令和4年度から男女共同参画センターとともに主催し実施しています。



## 1. 女性チャレンジ委員会（平成27年度～令和4年度）

### プログラムや事業の特徴

#### （1）地域から推薦され、地域に還元

広く女性の意見を市政に反映するため、48ある市内の地区コミュニティ協議会に委員の推薦を依頼しました。2年間の委員会活動をつうじて得た経験やネットワークは、地元での活動に活かされています。

#### （2）2年かけて調査研究し、市長に政策提言

興味関心に応じて6名程度のグループにわかれ、「調査研究テーマの設定、現状把握のための情報収集、情報の点検・分類・分析、課題の抽出」等を行いました。女性が説得力をもって意思決定の場に参画できるよう、根拠となる調査を実施し、データを分析できる力量形成をめざしています。2年間で10回程度開催される委員会に加え、必要に応じてグループ単位の自主学習や調査を行いました。それらの集大成として課題解決のための地域づくり事業を立案し、市長に報告書を提出しました。

#### （3）男女共同参画の視点を育成

調査等を通じて収集した情報を「人権・男女共同参画の視点」から点検することで、男女共同参画について理解を深めました。募集の際も、男女共同参画政策に関する委員会であり、地域生活者の視点で地域課題を解決するという目的を前面に出しました。男女共同参画について学習する機会は最初の1、2回だけで、初学者も多かったのですが、委員会には必ず講師が参加し、グループワークで出される意見やレポート等にも男女共同参画の視点で助言しました。そのため日常生活と関係のあるところから少しずつ理解が進み、1年ほどすぎると、日々の困りごとや悩みの原因がジェンダー構造に起因することに気づくようになります。

#### （4）多様性を尊重する対話力を育成

年齢、居住地域、経歴等が異なる多様なメンバー同士のグループワークを通して、合意形成を図るためのマインドとスキルを習得し、多様性を尊重する対話力を高めました。

#### （5）「自分たちに何ができるか」を自問

「女性50人委員会」から「女性チャレンジ委員会」への改訂では、2点見直しました。一点目は定員です。「50人」ではきめ細やかなフィールド調査やグループワークができず、人材育成が難しいため、「30人程度」に削減されました。二点目は、サービスを「受ける側」から「提供する側」への意識転換です。「女性50人委員会」では女性の声を「聞く」ことが目的だったため、要望や陳情のような提言にとどまりがちでした。しかし市政に参画できる女性人材を育成するため、「自

分たちに何ができるか」という姿勢で政策提言することになりました。

#### (6) 任期後も活動を後押し

任期終了後は、人材バンクへの登録を依頼しています。市の担当者からの問い合わせに応じて審議会委員等を推薦したり、センター主催の出前講座の講師を依頼したりしています。男女共同参画推進実行委員会への応募も声がけし、市主催のフォーラムやフェア等の企画運営や、男女共同参画に関する市の情報紙の企画、記事作成、編集を行う場を提供し、主体的な活動につなげています。元委員同士のネットワーク化や活動を促すため、年に1,2回、前期の委員に近況をきく機会も設けています。

#### (7) 委員構成の多様化

当初は、委員の大半が地区コミュニティの役員等でした。しかし地域課題や生活課題には、ワークライフバランス等、仕事をめぐる課題が伴います。そこで第9期（令和3・4年度）の募集では、市の企業連携協議会と社会福祉協議会にも推薦を依頼しました。結果、委員の年齢層が30～70代に広がり、職業も会社員、パート、育児中の女性、医療介護福祉関係、地域活動のリーダー等、多様化しました。「女性50人委員会」当初から、委員会は平日午後に開催しています。しかし、平日は参加しづらいという声が届くようになりました。企業推薦で「働く女性」に参加してもらうためにも、開催日時について検討しているところです。

### 令和3・4年度（第9期）事業の概要

#### 対象・定員

1期2年、30人程度

※公募枠もあるが、主に市内の地区コミュニティ協議会から推薦された女性が就任

#### 実施体制

本センター主催

#### 事業評価の指標

1期2年の成果物として、報告書を市長に提出

## 2. エンパワーメントセミナー（令和5年度）

### プログラムや事業の特徴

#### （1）「地域の代表」から「自らの学び」へ

「女性50人委員会」と「女性チャレンジ委員会」は、「地域の代表」と位置づけられていました。しかし「個人として」男女共同参画を理解し、行動をおこせる人材育成とネットワークづくりをめざすこととなり、令和5（2023）年度に「エンパワーメントセミナー」と改称して、新たなスタートをきりました。「地域で」活躍できる人材育成という目標は変わらず、プログラム内容もほぼ同じです。地区コミュニティ協議会からの推薦制も継続しています。しかし「自らの学び」をめざす個人参加型のセミナーに位置づけが変わりました。

#### （2）男女共同参画の視点とネットワーク化をさらに強化

「女性チャレンジ委員会」では、男女共同参画に関する講義は最小限にとどめていました。しかし男女共同参画について理解が深まれば、自ずと実践が促されます。そこで「エンパワーメントセミナー」は、定期的に座学を入れる等、男女共同参画についてより深く学べるプログラムに改訂しました。

また「女性チャレンジ委員会」では緻密な事業提案書を作成したため、質量ともに自主学習の負担が大きく、仕事との両立が難しいといった声がありました。作成作業に追われ、想いを語り合う時間的・心理的余裕をもちにくい面もありました。そこで「エンパワーメントセミナー」では、事業提案書は簡略化します。ただし事業提案や経営計画の作成等、共同作業で促される「関係性づくり」は担保しています。たとえば元委員と現役参加者の交流会をプログラムに入れ込み、両者のネットワーク化を図っています。

### 令和5年度事業の概要

#### 対象・定員

1期2年、30人程度

薩摩川内市内に居住する18歳以上の女性で、公募、地区推薦及び各種団体が推薦する者

#### 実施体制

本センター主催

#### 事業評価の指標

令和6年度に市長に事業提案書を提出予定

---

---

## 成果

報告書で提案した事業の具体化をめざして、元委員によるグループが複数立ち上がっています。地域課題を解決するための団体やグループを立ち上げた人、団体・グループの役員やリーダーになった人、審議会委員や市議会議員になった人もいます。

「女性チャレンジ委員会」の活動や政策提言は、市政関係者に広く知られています。報告書に記載された事業提案については市の担当者に伝えており、歴代市長も提言内容を高く評価してきました。市議会の答弁等でも、よく言及されます。

---

---

## 今後の課題・抱負など

令和5(2023)年度に個人参加型へ舵を切りましたが、この方向性がよいのか検証していきたいです。また企業推薦の参加者が増え、より多様な意見が出るようになりました。仕事も家庭も忙しい人たちが、負担なく参加できるための工夫も必要です。

---

薩摩川内市男女共同参画センター

所在地：鹿児島県薩摩川内市平佐町1丁目18

運営形態：公設公営、開館年：2021年、職員数：2人

運営者：薩摩川内市



### 3. 「地域の女性リーダー」育成に伴う課題解決のヒントになる事業 (2) 学びを実践につなげる工夫

## 事例9 ～「自分らしいリーダーシップ」を地域で活かす～ 仙台市男女共同参画推進センター エル・パーク仙台（宮城県仙台市） 地域版女性リーダー育成プログラム “決める・動く”

半年間にわたるプログラムと受講者同士の学び合いを通し、自分らしいリーダーシップを発見し、それぞれの現場に還元できるリーダーを育成しています。

#### 実施の背景とこれまで

東日本大震災では女性が避難所運営など被災地の現場や復興過程などの意思決定の場に十分に参画できず、様々な困難と向き合わざるを得ませんでした。女性が地域でリーダーシップを発揮するための研修が必要だと痛感し、まずは「地域を知る」ことから始めたところ、すでにリーダーシップを発揮している女性たちと出会い、協働するようになりました。様々な場で支援・復興活動をしている女性たちを「見える化」し、彼女たちがスムーズに活動するために何ができるかを検討した結果、啓発や知識の伝達ではなく、彼女たちがすでに持ち合わせている力を引き出し、発揮することを応援するプログラムが求められると考え、平成28（2016）年度に「地域版女性リーダー育成プログラム“決める・動く”」を開始しました。

#### プログラムや事業の特徴

##### (1) 「自分らしいリーダーシップ」を発見し、地域に還元するための3つの工夫

第一に、自分の資質を理解し、自信を得ることをめざしています。復興過程で女性が発揮してきた様々な「力」を再評価することで、いわゆる上位下達的なリーダーシップに限定されない、女性の多様なリーダーシップを発掘してきました。プログラムでは受講者個々の「強み」を活かしたリーダーシップを養成します。「人前で話すことが苦手」と言っていた女性たちも、修了式では自分の言葉で堂々とスピーチできるようになります。

第二に、地域の課題解決や組織の目標達成に必要なマネジメントの視点を磨きます。話し合いをマネジメントするファシリテーションのポイントや、自分の意見を発信するためのスピーチスキル等をワークショップ形式で実践的に学びます。

第三に、実践トレーニングと受講者同士の学び合いを繰り返します。たとえば毎回「チャレンジ」という名のホームワークを課し、学んだことをそれぞれの現場で実践してもらいます。次回の講座で実践内容を発表し、工夫や失敗等を共有します。同じ志を持つ者として、地域のために何ができるかを考え、励まし合い、行動し続けるモチベーションが高まります。

## (2) 実践につなげるため「活動の現場をもつ女性」を優先

地域団体（町内会等）やNPO団体等からの「推薦制」を取り入れ、定員を超えた場合は「仙台市内に活動拠点がある、地域団体やNPO団体等からの推薦を受けている、講座での学びを実践する活動現場がある」女性を優先しています。推薦がない人も、「学びを生かす現場があること」を基準に選考します。「なにか活動を始めたい」人を断らざる得ないこともありますが、学びで終わらせないために、「活動の現場をもつ女性」に参加してもらいます。

## (3) 地域団体の推薦が増加

令和3（2021）年度から、仙台市内の全町内会（約1,380）に案内を送付しています。地域団体からの推薦は年々増え、令和5（2023）年度は受講者の6割超を占めます。回を重ねるにつれて市内全域の町内会から推薦されるようになってきました。普段はあまり接点のない、町内会とNPO団体等がそれぞれの経験やネットワークを持ち込むことで、相互学習がより深まります。

## (4) 推薦制の利点

地域団体やNPO団体に選ばれて参加しているという自負が意欲を高め、受講者同士の刺激にもなっています。半年にわたる長期講座ですが参加率は高く、途中で辞める人はほぼいません。「推薦されたけれど自分に務まるか不安」といった思いでスタートする人もいますが、学びや実践そのものに消極的な人はおらず、そのような女性を一押しできることも推薦制の利点といえます。

受講者がエンパワーメントされるだけでなく、送り出した人材が活躍することで推薦団体にも成果が還元され女性リーダーの必要性がより認識されることになります。推薦団体とは、修了式への招待などを通して、当センターと顔の見える関係をつくっています。「あの町内会にあの人がいる」というつながりは、町内会と男女共同参画センターと一緒に地域を盛り上げようという機運につながります。

## (5) 「女性と防災まちづくり」の観点から被災地を視察

防災や復興、まちづくり等で女性がリーダーシップを発揮するための研修なので、被災地でのフィールドワークを行っています。コロナ禍以前は宿泊研修としたため、チームビルディングにも役立ちました。コロナ禍以後は、日帰りで実施しています。なお、プログラム参加費は有料（2023年度は8,000円）としています。参加意欲を維持するためにも、仙台市と協議して金額を設定しています。

## (6) 職員もスキルアップ

スピーチトレーニング等では、センターの職員も講師を務めます。本財団では、ノルウェー王国が防災や復興を担う女性リーダー育成のために設けた「東日本大震災復興のための女性リーダーシップ基金」を活用し、ノルウェーを視察。現地の女性リーダー育成プログラムを受講する機会を得たことが当プログラムの開発につながっており、そのときの講座テキストを参考にする等して、エッセンスを取り入れています。

## (7) 男女共同参画を「学ぶ」ではなく「実践」

実践的なリーダーシップ養成プログラムなので、男女共同参画や防災等の基礎知識を「学ぶ」回はありません。ただし講師陣はセンターの他の事業でも関わりがあるなど、男女共同参画の視点をもつ方々です。女性の声を通りにくい地域の現状を経験し、自分たちが発言することで地域がより良くなることを肌感覚で理解している受講者が、地域でリーダーシップを発揮するという実践そのものが、地域における男女共同参画推進だと捉えています。

## 令和5年度事業の概要

### 対象・定員

女性20名

- ・町内会やPTAなど地域で活動している方
- ・NPO団体や市民グループ、ボランティア団体等に所属し、活動している方
- ・地域などでこれから活動を始めたいと考えている方

※定員を超えた場合、「仙台市内に活動拠点がある／地域団体やNPO団体等からの推薦を受けている／講座での学びを実践する活動現場がある」方を優先

### 実施体制

仙台市と公益財団法人せんだい男女共同参画財団による共催

### 事業評価の指標

- ・受講者による評価（満足度、リーダーシップへの活用）
- ・本事業を含め、本センターと姉妹館（エル・ソーラ仙台）で実施する女性リーダー育成事業修了者の「財団の主催事業等への登壇数」

---

---

## 成果

修了後に、地域課題を解決するための団体・グループの役員やリーダーになった人、自治会役員、審議会委員、議員になった人もいます。修了年度ごとのネットワークも立ち上がり、互いの活動を応援したり、イベントを企画したりしています。

多様な女性リーダーが育っていることに加え、センターとしても、これまで接点がなかった町内会の人たちとつながれたことにも大きな意義を感じています。推薦者である男性の町内会関係者が修了式に参加し、受講者たちに応援メッセージを送ることもあり、地域での男女共同参画推進の広がりを感じます。

---

---

## 今後の課題・抱負など

179人にのぼる修了者（令和5年度現在）が活躍できる機会を増やしたいです。令和4（2022）年度には、姉妹館のエル・ソーラ仙台が主催する企業版女性リーダー育成プログラム「企業の未来プロジェクト『仙台女性リーダー・トレーニング・プログラム』」受講者と交流しました。令和5年度も同プログラム受講者とともに企画を練った「せんだい女性リーダーフォーラム」を国際女性デー（3月8日）に合わせて開催します。一般の参加者も交えて、これからの仙台のまちづくりについて話し合います。仙台市の男女共同参画センターとして、様々な分野で活躍する仙台の女性リーダーたちの「見せ方」について考えていきたいです。

---

仙台市男女共同参画推進センター  
エル・パーク仙台

所在地：仙台市青葉区一番町4丁目11番1号141ビル（仙台三越定禅寺通り館）5・6F  
運営形態：公設民営、開館年：1987年、職員数：21人  
運営者：公益財団法人 せんだい男女共同参画財団



令和5（2023）年度チラシ（2頁目）

プログラム

☆研修での学びを自分の活動や地域に戻って実践することをここでは「チャレンジ」と呼んでいます。

日程	時間	プログラム	講師等
[1] 6月1日(木)	13:30～17:00	<b>■自己紹介</b> <b>■オリエンテーション「仙台防災枠組」と「決める・動く」</b> <b>■ネットワークをつくる</b> 目標に向かってお互いにサポートし合えるネットワークをどのように構築・活用するのかを学び、今後につなげます。	(公財) せんだい男女共同参画財団職員
[2] 6月22日(木)	13:30～17:30	<b>■自分の『強み』を活かす</b> 自分の「強み」を見いだすストレンクスファインダー（米国ギャラップ社が開発したツール）を使用。自分の才能を理解し、目標達成に向けた「強み」の活かし方を学びます。	森川 里美氏 ギャラップ認定ストレンクスコーチ、国際コーチング連盟マスターコーチ
	17:30～18:00	<b>■振り返り、チャレンジの確認</b>	
[3] 7月6日(木) (フィールドワーク)	8:30	仙台駅出発 <b>■被災地視察</b> <b>■まちづくり団体との交流（一般社団法人ウィーアワン北上）</b> <b>■リーダーに聞く</b> リーダーとして大切にしていることなどについて伺います。	阿部 憲子氏 南三陸ホテル観洋 女将
	18:00（予定）	仙台駅着	
[4] 7月27日(木)	13:30～14:10	<b>■チャレンジの共有</b>	
	14:15～17:15	<b>■話し合う力</b> グループ・団体に「話し合う力」があるかどうか、活動の質や満足度に大きく影響します。実りある話し合いに向けて、参加者のコミットを促す場づくりを学び、実践につなげます。	遠藤 智栄氏 ファシリテーター、株式会社ばとん 代表取締役、地域社会デザイン・ラボ 代表
	17:15～17:30	<b>■振り返り、チャレンジの確認</b>	
[5] 8月24日(木)	13:30～14:10	<b>■チャレンジの共有</b>	
	14:15～17:15	<b>■人を巻き込むコミュニケーション</b> 目標に向かって周囲の人をどのように巻き込み、働きかけるのか。説得力のある話し方や根回しの方法など、戦略的なコミュニケーション力を磨きます。	藤田 潮氏 and Cs（アンドシーズ）代表
	17:15～17:30	<b>■振り返り、チャレンジの確認</b>	
[6] 9月14日(木)	13:30～14:10	<b>■チャレンジの共有</b>	
	14:15～17:15	<b>■まちづくりコーディネーターの役割</b> 地域の人々の思いを集め、様々な機関や団体と連携しながら活動を進めるには？客観的にまちづくりを捉える視点を養います。	榊原 進氏 特定非営利活動法人都市デザインワークス 代表理事
	17:15～17:30	<b>■振り返り、チャレンジの確認</b>	
[7] 9月30日(土)	10:00～12:00	<b>■修了者との交流会</b> 本プログラム修了者との交流を通じて、さらにネットワークを広げます。	
[8] 10月5日(木)	13:30～14:10	<b>■チャレンジの共有</b>	
	14:15～15:15	<b>■中間振り返り</b>	
	15:20～17:30	<b>■スピーチトレーニング①原稿を練る</b>	(公財) せんだい男女共同参画財団職員
[9] 10月26日(木)	13:30～16:30	<b>■スピーチトレーニング②話し方、見せ方</b> 自信を持って自分の思いを伝えるための話し方や、壇上での見せ方をトレーニングします。	渡辺 祥子氏 アナウンサー、朗読家
	16:30～16:40	<b>■振り返り</b>	
	16:45～17:30	<b>■受講者ネットワーク①</b>	
[10] 11月9日(木)	13:30～16:50	<b>■スピーチトレーニング③スピーチの実践</b>	(公財) せんだい男女共同参画財団職員
	16:50～17:30	<b>■受講者ネットワーク②</b>	
[11] 11月30日(木)	13:00～14:15	<b>■リハーサル</b>	
	14:30～16:00	<b>■受講者スピーチ・修了式</b>	
	16:00～17:00	<b>■交流会</b>	

### 3. 「地域の女性リーダー」育成に伴う課題解決のヒントになる事業 (3) 参加者のハードルを下げる工夫

#### 事例 10 ～「自分を信じて」一歩踏み出す～

三重県男女共同参画センター（三重県）

## 人財育成講座

## “種まきプロジェクト～地域編～”

仲間とつながること、自分に自信をつけること、社会の仕組みを知ることで、一歩踏み出せる講座です。

### 実施の背景とこれまで

本センターでは、かねてから「地域の女性人財」育成事業を実施したいと考え、どのようにプログラム化すればよいか検討していました。まずは地域に対する「想い」を話し合い、つながることをめざして、平成29（2017）年度に「女性のためのエンパワーメント・スクール」を開始しました。次年度から、「想い」を実現するためのスキルの習得、アクションプランの作成等、実践的なプログラムを追加しました。令和2（2020）年度から、新たな指定管理事業として「人財育成」事業をリニューアルすることとなりました。「種をまき、その種が育っていく」をイメージし、「地域」「働く場」「社会の課題解決」の3つのそれぞれの場所で活躍する出来る人財育成講座を始めました。その「地域編」が地域で自分の出来ることや、やりたいことに挑戦してみたい人財を対象とした人財育成講座「わたしも地域ももっとよくなる！マインドチェンジ！わたしができるコト」です。コロナ禍での開催となり、2年間はオンラインを取り入れながら、センターがある津市で2年間開催しました。その後は、センターを飛び出し、市町と連携して実施しています。

### プログラムや事業の特徴

#### (1) 女性の「エンパワーメント」から「人財育成」へ

令和元（2019）年度まで「女性のエンパワーメント」枠の事業だったため、評価指標として参加者「数」が重視されました。幅広く関心を得られる事業は、「数」は得られても参加者の意欲や

目的が多様化し、人財育成につながりにくい面があります。そこで指定管理切り替えのタイミングで三重県と協議し、事業の枠付けを整理しました。結果、幅広く関心を得る事業は別途実施することとし、令和2（2020）年度から「人財育成」枠に移して、事業名称も「種まきプロジェクト」に改訂しました。

## （2）出前講座形式で実施

令和3（2021）年度まで、男女共同参画センターがある三重県総合文化センター（津市）を会場として実施していましたが、遠方の市町からは参加がしづらく、地域が離れていると講座終了後に、せっかくできた「つながり」も続きにくいという課題がありました。修了生を地域の行政職員とつなげる工夫もしましたが思うように成果がでませんでした。そこで、人財と出会い参画を後押しするには地域に出向く必要があると判断し、令和4（2022）年度から市町と共催して出前講座形式で実施しています。地域の仕組みを知り、地域の人とつながりながら、事業展開できるようにになりました。（令和4年度は四日市市・鈴鹿市、令和5年度は尾鷲市と共催）

## （3）選択制フィールドワークを導入

家庭や仕事等の事情で、意欲はあっても全ての講座に参加できない女性は少なくありません。そこで令和5（2023）年度は講座を3回に減らし、代わりに選択制のフィールドワークを設けました。職員が開催地域の関係者と相談したり、講師の意見やネットワークを生かしたりして、日時が異なる5つのオプションを用意しました。地域の意思決定の場を現地視察することを目的に、地域交通に関する協議会を傍聴する等しています。各地域で活躍する人へのインタビューも行うので、参加者や職員が各地域の人財と出会う機会ともなっています。なお講座は3回に減りましたが、5回のフィールドワークを含め、職員の関与は10回程度の連続講座並みです。

## （4）「そのままの自分」で一步踏み出せるよう後押し

「リーダー育成」を前面に出すと、ある意味「抜きこんでいる女性」だけが参加しがちです。しかし誰もが「そのままの自分」として力をもっていることや、「そのままの自分」の力が地域に役立つことを伝えたいと考えています。そこで事業の「見せ方」に気を配ってきました。チラシの文言やレイアウトを柔らかくしすぎると、「人財育成」の意図が曖昧になってしまいます。しかし女性が参画を躊躇せざる得ない地域事情もあるので、ハードルを上げすぎないようにしています。

「何か始めたいがどうすればよいかわからない」「人前で発表なんてとんでもない」と思っていた人も、講座を通じて話し方のスキルを身につけ、自分の考えを整理してプレゼンテーションすると自信がきます。「自分のことを話す経験」は人を積極的にするので、センターの主催事業に登壇してもらう等、「人前に立つ」機会を増やすようにしています。また地元では「出る杭は打たれる」ため孤立している人も、同じ三重県で頑張っている女性を知ると意欲がわくので、講師も職員も「身近で具体的な事例」を伝えるようにしています。

## （5）講師と職員がこまめにフォロー

長期の連続講座は、一度欠席すると参加しにくくなります。そこで欠席者には必ず電話したり、

センターに来てもらったりして、講座内容や次回の課題を共有します。「考えはあるけれど言葉にならない」人とは一緒に考え、「大丈夫、できますよ」と最後まで声がけします。プレゼン資料を作るため何度もセンターに通った人や、パソコンの立ち上げ方から一緒に始めた人もいます。

#### (6) 男女共同参画の視点を徐々に共有

ハードルを上げすぎないように、男女共同参画の視点は抑え気味です。参加者同士で話す時間が長いほどモチベーションがあがるので、座学形式の学習は最小限にしています。ただし講師には、各回のテーマにそって男女共同参画の視点に触れるよう依頼しています。

### 令和5年度事業の概要

#### 対象・定員

テーマに関心のある女性で全3回の講座にすべて参加できる方、10名程度

#### 実施体制

共催・尾鷲市役所 政策調整課

※出前講座ではなかった令和3年度以前は、本センター主催（単独開催）

#### 事業評価の指標

- ・定員充足率
- ・参加者の満足度（最終回に参加者アンケートを実施）
- ・毎講座後の「振り返りシート」で「自己評価」と「グループ評価」（=今日の講座について自己及びグループの態度や成果を採点）を依頼し、次回の企画・運営に活用



---

---

## 成果

「地域の人がつながれる場所があったら」といった漠然とした想いにも、「こういう場所が良いと思う」「こういう仕掛けがあったら楽しい」等、講師や受講生がアドバイスしてくれます。平成29年度に始まる「地域の女性人財」育成事業のなかで、こうした支えを受けてプランをまとめ、実際に地域の人がつながるためのカフェを始めた人や、子育て中の居場所づくりをした人もいます。

---

---

## 今後の課題・抱負など

家庭の事情等で、出席したくても休まざるを得ない女性は少なくありません。人財の原石のような人は地域で頭角を現しているのですでに様々な役割を担っています。そこで選択制のフィールドワーク等、参加しやすいかたちを模索してきましたが、これからも工夫していきたいです。

---

三重県男女共同参画センター  
「フレンテみえ」

所在地：三重県 津市一身田上津部田1234  
運営形態：公設民営、開館年：1994年、職員数：12人  
運営者：公益財団法人 三重県文化振興事業団



各地で大好評の『地域の女性人財育成講座』 いよいよ尾鷲市に初登場！

尾鷲市・フレンテみえ 連携講座

令和5年度 フレンテみえ 種まきプロジェクトⅠ “地域”編

# わたしも地域も もっとよくなる！

～マインドチェンジ！ やってみたい、わたしができるコト～

あなたには、自分自身やまちの暮らしで「もっとこうならいいのに…」と感じていることはありませんか？

参加無料



自分や地域の現状・未来に関心がある

夢や希望ははっきりしてるけど、どうしていいかわからない

なんとなく「今のままではいけない」と感じている

そんな女性の皆さん！

地域でモノゴトが決定していく仕組みやモノゴトの進め方などについて仲間とつながりながらいっしょに学び、自分の想いを言葉にして自分も地域も “もっとよくなる” 方法と一緒に見つけましょう！

あなたの「どうする？」を「こうする！」に。

未来を変える第一歩、いっしょに踏み出してみませんか？



講師 **水谷 香織** さん

名古屋学院大学 現代社会学部 准教授  
パブリック・ハーツ(株) 代表取締役

日時	令和5年	連続講座 全3回 +α
第1回...	<b>8/26 (土)</b> 13:00~16:30	「自分と向き合い自信をつけよう ～わたしもできる！と思えるためのワーク」 (ほか)
field work	フィールドワーク期間①	期間中、グループまたは個人で地域の意思決定の場の現地視察等を行っていただきます！ 内容などは第1回講座内でお知らせします。
第2回...	<b>10/29 (日)</b> 13:00~16:30	「地域の意思決定プロセスを知ろう」
field work	フィールドワーク期間②	期間中、グループまたは個人で地域の意思決定の場の現地視察等を行っていただきます！ 内容などは第1・2回講座内でお知らせします。
第3回...	<b>12/23 (土)</b> 10:00~16:30	「わたしも地域もよくなるために ～未来に向けた“マインドチェンジ”」

会場	第1・3回	第2回
尾鷲市立中央公民館	3階 大会議室 (JR尾鷲駅下車 徒歩約8分)	尾鷲市福祉保健センター
		4階 多目的ホール (JR尾鷲駅下車 徒歩約8分)

対象定員 **テーマに関心のある女性で 全3回の講座にすべて参加できる方 / 10名程度**

要事前申込 お電話・ホームページ申込フォーム・E-mail・窓口にて受付  
※応募者多数の場合は、連携開催の尾鷲市とその周辺市町などお住まいの地域を考慮した上で抽選を行う予定です

託児 **あり(要事前申込)** ※講座申込時、一緒にお申込みください  
★対象：6カ月～小学3年生程度 ★料金：無料

申込締切 **8月5日(土) 必着** (講座・託児とも)  
※受講可否は8/13までに申込者全員へお知らせします

共催 **尾鷲市役所 政策調整課** 〒519-3696 三重県尾鷲市中央町10番43号  
TEL:0597-23-8134 <https://www.city.owase.lg.jp/>



企画・申込み / **三重県総合文化センター 三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」**  
〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234 TEL 059-233-1130 FAX 059-233-1135  
E-mail: frente@center-mie.or.jp URL: <https://www.center-mie.or.jp/frente/>  
休館日 / 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌平日) 開館時間 / 9:00 ~ 19:00

### 3. 「地域の女性リーダー」育成に伴う課題解決のヒントになる事業 (4) 若年層を対象

#### 事例 11 ～大学生対象のセミナー～

ぐんま男女共同参画センター（群馬県）

エンパワメント・ユースカレッジ（令和3・4年度）

大学生サマープログラム（令和5年度）

これからの地域コミュニティやジェンダー平等社会を牽引する人材の育成をめざして、大学生対象のセミナーを実施しています。

#### 実施の背景とこれまで

群馬県では、自治会長や市町村審議会等委員の女性比率が全国でも低位に位置する等、地域における男女共同参画推進の遅れが課題とされてきました。また男女共同参画センターでは様々な事業を行ってきましたが、参加者の大半は中高年層で、若年層への働きかけが不十分でした。

そこで若年層を対象に、地域における男女共同参画を推進する人材育成事業を実施することになりました。若年層向けの事業は女子高校生対象の「理工系チャレンジ支援セミナー」のみだったので、令和3（2021）年度に大学生対象の「エンパワメント・ユースカレッジ」を立ち上げました。大学生が関心をもって参加できるセミナーになるよう工夫を重ね、令和5（2023）年度に「大学生サマープログラム」と改称して、新たなスタートを切ったところです。

#### エンパワメント・ユースカレッジ（令和3・4年度）

#### プログラムや事業の特徴

##### (1) 学生の関心に合わせてプログラムを改訂

令和3（2021）年度は、様々な観点から男女共同参画について学べるよう、包括的な講義に続いて起業・複業、女性の健康、大学生にとって身近なロールモデルである女性社員の経験談等、バラエティーに富むプログラムを用意しました。申込者の受講動機も、他大学の学生とディスカッ

ションして色々な意見を知りたい、ジェンダーについて学ぶことで視野を広げたい、といったものでした。しかし実際にセミナーを始めてみると、様々な領域のジェンダーギャップについて万遍なく情報提供するより、就職活動を控えた学生にとって身近な「働き方」の問題に絞る方が、意欲が高まることがわかりました。そこで令和4（2022）年度は、企業に勤める複数の女性に講師を依頼しました。

## （2）学生の「参加しやすさ」を追求

令和3年度・4年度ともに、「6日間、全8回」で実施しました。しかしより多くの学生に参加してもらえるよう、令和4（2022）年度には1回あたりの講義時間と開催時期を変更しました。1コマの講義時間は180分から90分に短縮し、「土日だとアルバイトができない」「冬は試験やレポート期間と重なる」といった参加学生の意見をふまえて、開催時期も「冬（11月～2月）の土日」から「夏休み（8月～10月）の平日中心」に変えました。

## （3）「女子限定」から「男女対象」へ

令和3（2021）年度は、「群馬県内に所在地のある短期大学・大学・大学院に通う女子学生、群馬県内に在住する女子短期大学生・大学生・大学院生」対象の女子限定セミナーでした。しかし参加学生から「女性だけが女性活躍について考えたり、頑張ったりしても効果がない」「男子学生と一緒に考えたい内容」といった意見があったため、令和4（2022）年度は対象を男女に広げました。

## 令和4年度事業の概要

### 対象・定員

- ・群馬県内の短大、大学、大学院に通う学生、または群馬県在住の短大生、大学生、大学院生
- ・定員20名

### 実施体制

- ・本センター主催（単独開催）

### 事業評価の指標

- ・定員充足率、出席率、参加者の満足度



## 大学生サマープログラム（令和5年度）

### プログラムや事業の特徴

#### （1）「大学生サマープログラム」に改称

「エンパワメント・ユースカレッジ」参加者から、「エンパワメント」という言葉はなじみがないので「エンパワメント・ユースカレッジ」ではセミナーの内容がわかりにくい、と指摘されました。そこで「大学生対象」「夏休みに集中的に実施」という意味をこめて、「大学生サマープログラム」に改称しました。

#### （2）引き続き、学生の「参加しやすさ」を追求

どうすれば大学生に参加してもらえるか、「エンパワメント・ユースカレッジ」で得た経験や参加学生の反応、講師の意見等をもとに試行錯誤しています。拘束時間が長いと参加しにくいので、講座数を減らし、最終日の成果報告会も廃止して、「3日間、全5回」に圧縮しました。成果報告会の代わりとして、グループワークの最後に「今日思ったこと」や「今後やってみたいこと」等を発表してもらいました。また「エンパワメント・ユースカレッジ」は対面開催でした。しかし群馬県は広域なため学生の交通費負担が重く、さらに本センターは公共交通機関でアクセスしにくい場所にあるため、自家用車をもつ学生に他の学生が乗り合わせて参加したこともありました。一方、大学でオンライン授業を経験しているので、オンライン開催には抵抗がありません。そこで全ての回をオンラインで実施したところ、出席率が6割～7割にあがりました。

#### （3）「きっかけ」や「学び」を提供

立ち上げ当初は「人材育成」を目的とし、「ダイバーシティマインド」「ライフデザイン力」「コミュニケーション系スキル」「問題解決力」を養い、「仲間づくり」を通じて多様な価値観を身につけることを目指しました。しかし参加学生のほとんどは、すでにこれらの力を持ち合わせています。また学生は発想が柔軟で、ジェンダー不平等に敏感です。そこで理想のリーダー像を設定し、それに向けて必要な力を養成する「人材育成」プログラムから、自分が進みたい進路に進んだり、新たな行動に踏み出したりするための「きっかけ」作りと、ジェンダーバイアスに惑わされず行動できるための「学び」にシフトしました。

## 令和5年度事業の概要

### 対象・定員

- ・群馬県内の短期大学・大学・大学院に通う学生
- ・群馬県内在住または群馬県出身の短期大学生・大学生・大学院生
- ・合計20名程度

### 実施体制

- ・本センター主催（単独開催）

### 事業評価の指標

- ・定員充足率、出席率、参加者の満足度

## 成果

「エンパワメント・ユースカレッジ」に続いて「大学生サマープログラム」に参加する学生、県が主催する群馬県出身の社会人との交流イベントに参加する学生等、新たな行動に踏み出したりするための「きっかけ作り」という目的は果たせています。

大学でサークルをたちあげ、女性議員との意見交換会を企画するような行動力ある学生が参加してくれました。修了後もセンターの事業をSNSで拡散してくれています。



---

---

## 今後の課題・抱負など

学生や若者とつながる手段として、SNSは重要です。そこで県内16大学からなる「ぐんまダイバーシティ推進地域ネットワーク」を通じて、各加盟大学等に広報しました。しかし大学経由のメールは、学生にとってより重要な他のメールに埋もれがちです。SNSも「お気に入り」のアカウントしか見ないため、県や男女共同参画センターの情報にはアクセスしてもらいにくい面があります。講座回数の圧縮、開催時期の変更、オンライン開催等、学生に参加してもらうための工夫も試み尽くしました。そこで「参加者を待つ」のではなく、アウトリーチを検討しています。予算の兼ね合いですべての大学に出向くことはできませんが、モデル校のような形で実施し、講座の良さが口コミで広がればよいと考えています。

県や市町村が単独で実施するには参加者確保が難しく、予算の制限もあります。関東版や全国版の大学生セミナーが開催され、全国の大学生と交流しながら学び、情報交換する機会となれば、学生の視野も広がると思います。

---

ぐんま男女共同参画センター

所在地：前橋市大手町1丁目13番12号

運営形態：公設公営、開館年：2009年、職員数：11人

運営者：群馬県

全講座  
オンライン

Zoom



令和5年度 連続講座

# 大学生サマープログラム

受講生募集

## ～ジェンダー平等で自分らしい未来を考える～

性別に関わらず、自分らしく主体的に多様な生き方を選択できる  
よう、社会の先輩リーダーによる連続講座を開催します。



8/18 金

1

13:30～14:20

「群馬県の現状と取組状況」

ぐんま男女共同参画センター職員

2

14:30～16:30

「身近に潜む“無意識の思い込み”に気づく」

（一社）アンコンシャスバイアス研究所 認定トレーナー 菊地 陽子氏



KIKUCHI YOKO

8/28 月

3

10:00～12:00

「自分と社会をつなぐ令和時代の起業・複業という選択肢」

グローリーハイグレイス（有）CEO 相京 恵氏



AIKYO MEGUMI

9/7 木

4

10:30～12:00

「男性にも知ってほしい、『女性の活躍とともにある健康課題』」

（株）ライフサカス CEO 西部 沙緒里氏



NISHIBE SAORI

5

13:30～15:00

「グループワーク」

（一社）アンコンシャスバイアス研究所 認定トレーナー 菊地 陽子氏

■実施方法：**オンライン**（Zoom：PCとインターネット環境をご準備ください）

■対象：群馬県内の短大、大学、大学院に通う学生 または、群馬県在住・群馬県出身の短大生、大学生、大学院生

■定員：20人 ■費用：無料（ただしインターネット環境の費用は受講生がご負担ください）

■申込み方法：ぐんま電子申請受付システムからお申込みください。  
こちらからぐんま電子申請受付システム（本セミナーの申込みフォーム）  
にアクセスしてください。  
[https://apply.e-tumo.jp/pref-gunma-u/offer/offerList\\_detail?tempSeq=13694](https://apply.e-tumo.jp/pref-gunma-u/offer/offerList_detail?tempSeq=13694)

■申込み期限：令和5年8月8日（火）まで（ただし、定員になり次第締め切ります）



■主催 ぐんま男女共同参画センター

■問合せ 群馬県生活こども課男女共同参画室 電話：027-897-2688 メール：sankakuse@pref.gunma.lg.jp

※個人情報、主催団体の事業運営目的のみに使用し、他の目的で使用することはありません。

# III

「地域の女性リーダー」育成事業を  
実施し、成果を得るために



「地域の女性リーダー」育成にかかわる事業を企画・実施し、成果を得るには様々な困難を伴います。なかでも多くの男女共同参画センターが直面している3つの課題について、事例紹介した11のセンターから伺ったお話をもとに、「解決のヒント」をお伝えします。



## どうすれば「地域の女性リーダー」育成事業を始められますか？

予算も、人も、ノウハウもない…というセンターは少なくありません。

まずは座談会のようなかたちで、「女性が安心して発言できる場」を提供するだけでもよいと思います。

全国的に有名な方をお呼びすることは難しいですが、地元で活動されている方なら、比較的小さい金額でも登壇して下さるし、ロールモデルとしての影響力もあります。

「自分たちもやってみたい」と思う事業を実施しているセンターや団体に足を運び、参加させてもらうのが一番です。講師を紹介してもらえたり、自分たちが実施するにはどうすればよいか、シュミレーションもできます。

「今、これが課題だ」といった思い込みからカリキュラムを立てがちですが、「地域で何が求められているのか」「何が欠けているのか」しっかり把握してから始めるとよいと思います。

地域で色々な活動をされている方々に声をかけて、「どういう人が、どういうことを思っているのか」聞いてみてはいかがでしょうか。その地域「ならでは」の課題やヒントが得られ、協力してくれる人も見つかります。

自分たちだけで何とかしようとせず、色々な人の助けを借りています。日頃から「地域の人たちに協力する」ことを意識して、「何かあれば協力してもらい、こちらも協力する」というウィンウィンな関係性を築くようにしています。



## どうすれば参加者が集まりますか？

「リーダーなんて無理」「リーダーになりたいとは思わない」等、参加者募集に苦勞しているセンターも少なくありません。

「得られるもの」が明確なら、参加してくれます。たとえば「ファミリーセッション」とか「合意形成のスキル」といったキーワードを目立たせると、参加したら「何ができるようになり、何が解決できるのか」イメージしやすくなります。

「リーダーなんて」と言われますが、すでに皆さん、リーダーシップを発揮しています。「その活動をもう少し充実させるために、こんな学びはいかがでしょう」と提案しています。

「リーダーになろう」ではなく、「地域のためにやってみよう」という見せ方をしています。実際、「地域をよくしたい」と思って参加する人がほとんどです。

近隣の市町村や地域の活動団体と連携すると、連携先がつながっている機関や団体を通じて参加者を募ることができます。

「リーダー育成セミナーに参加したい女性なんて、いない」というのは「思い込み」です。「学びたい女性」「待っている女性」は必ずいるので、ぜひ実施してください！



## どうすれば「実践」につながられますか？

学びで終わりがちで、リーダーとして実際に活躍してもらうことが難しい、という課題もあります。

「参加者同士が知り合う」時間を大切にしています。お互いを知って刺激し合うだけで、実践に踏み出せます。

人材リストに登録していただいたり、グループ活動を促したりして、修了生をネットワーク化するとよいと思います。思いをもつ人同士がつながれば、自ずと活動が始まります。

「リーダーになりましょう」という講演を1人で聞いても、踏み出しにくいと思います。誘い合って参加してもらって、変化が起きてきます。

地域の実情に詳しい方に、「学んだことを実践できる立場にいる人」を紹介していただいて、参加してもらおうとよいと思います。実際に力をもつ方々といっしょに、「センターと力を合わせて進めていきましょう」という気運をつくることができます。





# IV

## 座談会

地域の女性リーダーを育てるために、  
男女共同参画センターができること

# 座談会



## 地域の女性リーダーを 育てるために、 男女共同参画センターが できること

女性リーダーを育成し、地域において男女共同参画を推進するために、男女共同参画センターができることは何でしょうか。長年「地域の女性リーダー」育成事業にかかわり、全国の男女共同参画センターや自治体の実情に詳しい方々に伺いました。

### 【出席者】（敬称略）

オフィスEEE 男女共同参画アドバイザー：中村 和子

特定非営利活動法人 男女共同参画フォーラムしずおか 事務局長：谷口 年江

一般社団法人 とちぎ市民協働研究会代表理事：廣瀬 隆人

**中村**：オフィスEEEで、「Equity」「Empowerment」「Esteem」をテーマに活動しています。もともとは小学校教師で、指導主事として生涯学習にかかわったあと、兵庫県小野市の男女共同参画推進に携わりました。現在はフリーの立場で、7自治体のアドバイザーをしています。

**谷口**：平成18年から静岡市女性会館の仕事に就き、平成30年から昨年3月まで館長を務めました。現在は静岡市女性会館の指定管理者であるNPO法人の事務局長として、会館の後方支援を行ったり、指定管理事業以外の事業を担当したりしています。

**廣瀬**：専門は社会教育で、宇都宮大学の教員や栃木県教育委員長等、公務員も経験しました。コミュニティ形成のための支援・研究活動の一環で色々な地域とかかわってきましたが、山形県男女共同参画センターの「チェリア塾」とは、講師として20年以上のおつきあいです。

---

## 「地域の女性リーダー」育成の視点

—では、さっそく本題に入ります。男女共同参画センターが「地域の女性リーダー」を育成するうえで、大切にしたい視点とはどのようなものでしょうか。

谷口：そもそも「地域」とは何を指すのか、「リーダー」とは何かを考える必要があると思います。例えば「地域」とは静岡市全体なのか、もしくは自治会や自分が住んでいる地区なのか。また「リーダー＝肩書や役職がある人」と思われがちですが、必ずしもそうではないと思います。

「女性リーダーを育成すること」と「意思決定過程への女性の参画を促すこと」の関係性についても、日々自問しています。じつは静岡市女性会館の「アイセル女性カレッジ」では、現在は「リーダー育成」を標榜していません。しかし女性が意思決定過程に参画する必要性を強く訴えているので、学んだことを活かして自治会役員等になる人や管理職を目指す人が出てきました。そこで「地域の女性リーダー」を育成するには、自分たちが対象にしている「地域」とはどこなのかを自覚し、その実情をとらえたうえで、男女共同参画についてきちんと伝えることが大切だと思います。

中村：リーダー育成事業の一番の目的は、「つながり」をもってもらいたいことだと思います。参加者集めは大変ですが、ハードルを下げるより、むしろ専門性の高いプログラムにした方が人は集まります。そしてチラシを「配って終わり」ではなく、色々なところに出向いて「想い」を熱く語ってほしいです。大事なものは「専門性を維持しつつ、つながるって楽しいね、とハードルが下がる企画」と「想いが込められた情報を届けること」だと思います。

廣瀬：「男女共同参画センターは役割を果たしたから、もう要らない」といった一部の言説に対抗するために、「男女共同参画の合理性」の説明の仕方を変えていく必要があると思います。「女性は差別されているから、それを克服しよう」という文脈では、もう支持を得られないのではないかと。差別されていることにすら気づかない層が増えているように思う。まずは、これまで男女共同参画センターは何をしてきたのかを問わなければいけない。そして対象の変化に気づく必要があると思います。象徴的に言えば、電話やファックスで申し込む層から、QRコードへといった。大変ですが、時代の変化に追いつかなければいけません。

中村さんが指摘された「つながり」の重要性も、全く同感です。分断されていることに気づいていないことが、一番の問題だと思います。女性同士がつながることの難しさがあると思います。

---

## 「男女共同参画の合理性」と「男女共同参画センターの役割」

廣瀬：ある企業で興味深い話を聞いたのですが、その企業では「ひとつの性でものごとを決めない」という習慣があるそうです。男性だけとか、女性だけとかで会議をしてもよいのですが、最終的な判断をするときには、通りがかりの人でもよいから女性なり男性なりに意見をきくそうです。

べつに男女共同参画を進めたいのではなく、そうしないと良いサービスが提供できないからです。つまり利益を得るための技術として、それが極めて合理的であるということです。

**中村：**男女共同参画というと「男と女がフィフティー・フィフティーになればよいのだろう」といった感覚で語られがちですが、究極的にめざすのは「多様な人が活躍できる社会」だと念押ししています。

**廣瀬：**おっしゃるとおり多様性を受け入れるということですが、色々な人が「いてよい」ではなく、「いた方がよい」という考え方にならなければいけないと思います。

——そのために男女共同参画センターは何ができるか、というところですが

**廣瀬：**今までの説明の仕方では、アプローチできないような気がします。中村さんがおっしゃった「専門性が高い方が、人が集まる」というのはニーズに応じているからです。しかし「今、どんなことに困っているのか」についての感覚が、現場の女性と男女共同参画センターの職員でズレているような気がします。5人くらいでよいので、地域で活動している女性たちに丁寧な聞き取りをしてはどうでしょうか。そこに真実が隠されているような気がします。

**中村：**たしかに行政担当者と地道に活動している人たちとの意識差は、大きいと思います。担当者は案外、自分の自治体にどんなグループがあるか把握していません。ただ担当者個人の問題というより、事業の意義が庁内で共有されておらず、孤独になりやすい。そこで平成20年に、兵庫県北播磨地域（5市1町）の男女共同参画担当者による連絡会を立ち上げました。担当者が意欲と自信をもって庁内で発言するには、誰かとつながっているという安心感が必要です。そこで担当者の孤立を解消し、協働することで成果を上げています。

**谷口：**さきほど「男女共同参画センター不要論」の話が出ましたが、現在内閣府では、男女共同参画センターの機能強化を図ろうと、「男女共同参画センターにおける業務及び運営についてのガイドライン作成検討ワーキング・グループ」が開かれています。その中で、先ごろ全国の男女共同参画センターについて一斉調査が行われました。50頁以上もある調査票で、運営体制や事業内容等ここまで詳細な実態調査は初めてではないかと思います。私が役員を務める全国女性会館協議会でも「男女共同参画センターの機能強化」という流れをチャンスと捉えようと考えています。

**中村：**私がアドバイザーをさせていただいている自治体はどこも人口5万人以下で、2025年からさらに人口が急減します。当然、予算も減るので、今は行政がやっていることも市民力で補う必要が出てきます。「市民力」は従来の男性中心だけではなく、女性をはじめ、若い男性や外国人労働者等も含めてこそその「市民力」だと考えています。首長さんには「市民が集い、学び、活動するセンター」こそが市民力の元だと言っています。

---

## 「地域を知る」ために

——「男女共同参画の合理性」を説明し、「男女共同参画センターの役割」をきちんと示す。そのために現場の女性たちの声を丁寧に聞きとる、というお話でした。では、次なる課題として、「地域

を知る」ために男女共同参画センターは何をすればよいでしょうか。

谷口：私たちは、静岡市が主催した女性のための人材育成講座「アイセル女性カレッジ」の修了生有志がつくったNPOです。会館のサービスを利用する立場でしたから、同じような地域の団体とは関りを比較的もちやすいかと思います。ただ先ほどの「地域」とはどこか、という話にも関係しますが、自治会とのつながりが深いかと聞かれれば、残念ながらそれはありません。

平成30年のことですが、静岡市女性会館所管課の元課長が、静岡市駿河区の区長になりました。その方が区の防災人材育成を会館と一緒にやりたいと言ってくださり、区の地域防災担当と共催することになりました。そのご縁で各区の地域防災担当とつながりができ、地域で孤軍奮闘している女性のインタビュー調査をしたり、全自主防災会にアンケート調査をしたり、自主防災会長に当館の防災事業の受講生を推薦してもらったりしました。

センターにとどまっていたのでは、人脈は作れません。私たちのように行政の外にいる者が行政内に人脈を広げることはとても難しいのですが、キーパーソンが見つかるこんなにも上手くいくのかと実感しました。これは行政内のことばかりでなく、地域においても同様です。

廣瀬：茨城県結城市と栃木県小山市に女性の管理職と係長からなるグループがあって、合同で年に1～2回、自己研修をやっています。管理職を育てるために女性メンターをつけることが目的だそうで、そういった動きに男女共同参画センターがかかわることも1つかなと思います。

## 「絡め取られない」ために

廣瀬：よく「女性が必要とされている」と言いますが、本当にそうなのか気になっています。「人手不足だから女性も来てね」なら、絡め取られるだけです。

中村：「絡め取られない」は重要なキーワードだと思います。上手く使われないためには、「知識」と「知識を表現する力」が必要です。たとえば「知識」を得て防災士の資格をとると、男性たちもちゃんと話を聞いてくれます。女性たちの側も「知識を表現する力」を求めている、コミュニケーションやファシリテートの講座はかなりの人気です。男女共同参画センターには、「絡め取られない」ためのしたたかさや力量を持ってほしいです。

谷口：全く同感です。要は「大事なことを決める場で、自分の意見を言えるようになるか」です。私たちも防災の講座と言いながら、ファシリテートの仕方やアイデアの伝え方といったところに力を入れています。女性もできるということをおわかってもらう機会をつくるなど「絡め取られない」ようにするのもセンターの役割だと思っています。

廣瀬：その役割を果たすために、権威主義を取り除かなければいけないと思います。男女共同参画センターでも、講師を「〇〇大学の教授です」と紹介しますよね。講師を尊重してだとは思いますが、聞き手を弱者にしている可能性もあるのです。肩書や経歴を並べて話を聞かせるという権威主義から、男女共同参画センターこそ変わっていかなければいけません。

---

## 専門性の発揮

**廣瀬：**谷口さんから「地域」とはどこを指しているのかと問いかけられましたが、地域ごとに文化も歴史も全然違うので、望ましいリーダー像も育成方法も異なります。しかしこれまでは、地域の多様性を無視して先進事例を学んできました。これからの男女共同参画センターでは、「先進事例からの学び方」についての学習を丁寧にしていく必要があると思います。

その1つとして、「“数値目標”や“見える化”に踊らされないための知識と学習」があげられます。リーダー経験のない女性を即席で昇進させておいて、経験不足だからと決定権をはく奪したり、管理職になったと言っても、単なる数合わせになってしまいます。女性の財政課長や総務、人事課長が出なければ本物ではないと思います。一方、私が調査した栃木県のある地域では、その土地で生まれ、その地で生きる女性たちが、意思決定への参画を超えて事実上の実権を掌握している事例もあります。「地域リーダー」育成は、このような地域の実態調査から始めるべきではないでしょうか。「見せかけだけの男女共同参画」を信奉してしまわないように、「見えないものを見抜くための学習」が必要です。

**谷口：**どのような「リーダー」を育てるべきか、明確になっていないことも課題かもしれません。男女共同参画センターの人材育成とは、ジェンダー視点でものごとを捉え、意見を言い、行動できる人を育てることです。ここに男女共同参画センターの専門性が発揮されなければいけないし、腕の見せ所だと思っています。

男女共同参画センターが扱わなければいけないテーマは、年々広がっています。女性内の階層分化が激しいので、どのテーマを優先するかは悩ましい問題です。そういう意味でも、地域の実情を把握したうえで「どのような人材が必要か」「そのためにどのようなプログラムが必要か」考えなければいけないと思います。

**中村：**「男女共同参画センターとしての専門性」とは、知識とスキルとネットワークです。一番大きいのは「ネットワークの専門性」だと思います。ネットワークとは「人と人がどうつながるか」ということですから、まずは人が集まるセンターが重要になります。

生涯学習の施策には「気運をつくる」「人をつくる」「仕組みをつくる」という、3つの仕事があると思います。条例やプランの策定といった「仕組みづくり」は行政にしかできませんが、「気運づくり」と「人づくり」は男女共同参画センターのミッションです。

500人規模の講座では、「気運」はつくれても「人」はつくれません。「人づくり」なら、募集は10人以下でよいと思います。監査があるので、行政の方は驚かれますが、それは説明責任の問題です。「説明責任を果たせる資料は私がつくるから、10人でも、5人でもいいです」と言っています。成果を意識しないで「500人集めました」を繰り返すようでは、「男女共同参画センターは意味があるのか」となっていくと思います。

## 「新しい仕組み」を作るリーダーの育成

**中村：**エンパワーメントとは服を着こんでいくことではなく、むしろ脱いでいくことだと思います。どんどん脱いでいって、結局、自分の力とは何なのかに気づくことです。そのために担当者は、受講生と一緒に悩みながらセミナーをつくっていけばよいと思います。人は否定されながらでは変わらないので、受講生と肯定的な関係性をつくることも大切です。これは行政組織には難しい、センターという市民に開かれた場所でしかできないと思います。

**谷口：**女性たちはもともと力を持っているのに、性別役割分業社会の中でその力を発揮する機会を奪われてきました。エンパワーメントとは、自分に力があることに気づき、その力を思う存分発揮できるようにサポートすることだと考えています。機会を奪われ自信をもてずにいる女性たちに、それはあなたが悪いのではなく社会構造の問題だと伝え、力を引き出すのがセンター職員のミッションだと思います。

**廣瀬：**男女共同参画とは、男性を悪者にしたり、保守的な女性を批判したりすることではなく、「社会をどう変えるか」という問題です。そのあたりをちゃんと軸に据えて、世の中に波風を立てて生きていくしかないと思います。

**中村：**北播磨地域のリーダーさんが高校生の意識調査をしたのですが、共働きして家事・育児も一緒にやりたいという男子が9割を超えるんですね。彼らが社会に出たときつぶされないよう、廣瀬さんがおっしゃるとおり、きちんとした仕組みを持たなければいけないと思います。若い人たちに目を向けて、誰もが生きやすい「新しい仕組み」を作っていくリーダーを育てたいです。







# V

## 資料

令和5年度 国立女性教育会館  
「男女共同参画センターによる  
地域の女性リーダー育成事業に関する調査」  
概要と結果

# 1. 概要

対象：全国の男女共同参画センター 348施設

方法：回答フォーム（URL）を記載した依頼状をメールで送付。オンラインでの回答が難しい場合、メールに添付した調査票（Word形式）への記入・返送を依頼。

実施期間：2023年8月7日～2023年9月27日

回答数：259施設（回答率74.4%）

表1. 対象の施設及び回答した施設

## （1）地域区分別

地域区分	本調査の対象施設	本調査に回答した施設
北海道	2.9% (10)	2.3% (6)
東北	9.2% (32)	9.7% (25)
北関東	6.6% (23)	6.2% (16)
南関東	24.4% (85)	27.4% (71)
東海	7.5% (26)	7.7% (20)
北陸	3.2% (11)	3.1% (8)
近畿	23.0% (80)	20.1% (52)
中国	6.3% (22)	5.4% (14)
四国	2.9% (10)	3.1% (8)
九州	12.4% (43)	13.5% (35)
沖縄	1.7% (6)	1.5% (4)
合計	100.1% (348)	100.0% (259)

## （2）設置者別

設置者	本調査の対象施設	本調査に回答した施設
都道府県	14.1% (49)	12.0% (31)
政令指定都市	8.6% (30)	7.3% (19)
市区町（政令指定都市以外）	77.3% (269)	80.7% (209)
合計	100.1% (348)	100.0% (259)

・小数第二位以下を四捨五入しているため、合計が必ずしも100.0%にならない

・（ ）内はN

## 2. 主な結果

### (1) 「地域の女性リーダー」育成事業を実施した施設は、3割

回答を得た259施設のうち、昨年度もしくは今年度に「地域の女性リーダー」育成を目的とする事業を実施した（実施予定を含む）のは、84施設（32.4%）。

### (2) 都道府県及び政令指定都市の施設では、6割が実施

「地域の女性リーダー」育成事業の実施率※は、設置者の種類によって差がある。設置者が都道府県の施設では63.3%、政令指定都市の施設では57.9%。一方、設置者が市区町（政令都市以外）の施設では24.9%である。

※本調査に回答した施設のうち、昨年度もしくは今年度に「地域の女性リーダー」育成を目的とする事業を「実施した」施設の割合

表2. 「地域の女性リーダー」育成事業の実施率（設置者別）

設置者	A. 本調査に回答した施設 (N)	B. 「地域の女性リーダー」育成事業を実施した施設 (N)	「地域の女性リーダー」育成事業実施率 B / A
都道府県	31	21	63.3%
政令指定都市	19	11	57.9%
市区町（政令指定都市以外）	209	52	24.9%

### (3) 参加者が「リーダー」になった施設は、7割

「地域の女性リーダー」育成を目的とする事業を「昨年度以前から実施している」と回答した74施設に対して、これまでの参加者のなかに、事業の終了後、下記のような地域リーダーになった人がいるか尋ねた※。結果、55施設（74.3%）が、参加者がいずれかの選択肢に該当する「リーダー」になったと回答した（複数回答を含む）。

※選択肢は「地域課題（例：子育て、介護等）を解決するための団体・グループ等を立ち上げた」「地域課題を解決するための団体・グループ等の役員やリーダーになった」「自治会役員になった」「審議会委員になった」「議員になった」「貴センターの事業の企画や実施等にかかわった」「その他」

男女共同参画センターによる「地域の女性リーダー」育成に関する事業（一覧）

センター名	事業名
仙台市男女共同参画推進センター エル・パーク仙台	地域版女性リーダー育成プログラム 「決める・動く」
大崎市男女共同参画相談室	女性コーディネーター養成講座「大崎塾」
秋田県南部男女共同参画センター	地域の女性リーダー育成事業、地域の女性リーダー応援事業
秋田県北部男女共同参画センター	地域の女性リーダー育成事業、地域の女性リーダー応援事業
山形県男女共同参画センター	チェリア塾（基本コース、実践コース、専門コース）、やまがた緑塾
山形市男女共同参画センター	まち、わたし、きらめく Women's Campus山形
福島県男女共生センター	再生・復興女性リーダー育成事業 「復興・まちづくり女子会」
いわき市男女共同・多文化共生センター	女性活躍推進事業
日立市女性センター	男女共同参画セミナー
宇都宮市男女共同参画推進センター	地域活動における女性参画セミナー
佐野市男女共同参画推進センター	女性のキャリアアップ講座
ぐんま男女共同参画センター	エンパワメント・ユースカレッジ、大学生サマープログラム
埼玉県男女共同参画推進センター	女性リーダー育成講座
朝霞市女性センター	あさか女と男セミナー
入間市男女共同参画推進センター	女性活躍セミナー「カラーセラピーで考える いまさら聞けないSDGs講座～私たちにできること」
加須市女性センター	女性リーダー研修会
熊谷市男女共同参画推進センター	ステップアップセミナー
千葉市男女共同参画センター	女性が力を発揮するための防災セミナー
市川市男女共同参画センター	女性の政治参画・リーダー養成講座
足立区男女参画プラザ	講座「ワンステップUPセミナー」
大田区立男女平等推進センター	女性リーダー養成講座
江東区男女共同参画推進センター	パルカレッジ事業
中央区立男女平等センター「ブーケ21」	男女共同参画リーダー研修
港区立男女平等参画センター	女性向け起業講座「ソーシャルビジネスを知る！社会課題の解決を目指して」

センター名	事業名
目黒区男女平等・共同参画センター	女性団体リーダー国内研修助成
国分寺市立男女平等推進センター	男女共同参画と防災講座
多摩市立TAMA女性センター	TAMA女性センター市民運営委員会
東久留米市男女平等推進センター	令和5年度「データで知ろう！地域の今～子育てしやすいまちづくりに向けて～」 令和4年度「男女共同参画基本のき」
神奈川県立かながわ男女共同参画センター	かなテラスカレッジ
川崎市男女共同参画センター	女性の視点から災害を考える勉強会
相模原市立男女共同参画推進センター	さがみはらウイメンズカレッジ
新潟県女性センター	男女共同参画の視点からの人材育成セミナー
上越市男女共同参画推進センター	男女共同参画推進センター講座「女性のための地域協議会講座」「女性のための市政入門講座」
石川県女性センター	地域版女性人材育成プログラム
静岡県男女共同参画センター	令和4年度あざれあ魅力と活力あふれる地域づくり事業（東部）「女性の社会参画 この地域を元気にできるのは女性」
静岡市女性会館	アイセル女性カレッジ
浜松市男女共同参画・文化芸術活動推進センター	はままつ女性カレッジ
富士市男女共同参画センター	チャレンジセミナー
名古屋市男女平等参画推進センター・名古屋市女性会館	「なごや女性カレッジ」、愛知淑徳大学連携講座「ワタシとアナタで高める力！～社会で生かせる力を育てよう！～」
小牧市まなび創造館・女性センター	女性活躍推進事業
三重県男女共同参画センター	わたしも地域ももっとよくなる！マインドチェンジ！やってみたい、わたしができるコト
伊賀市男女共同参画センター	女性防災サポーター養成連続講座「防災こころ笑カレッジ」
名張市男女共同参画センター	2023年度人権啓発まちづくりリーダー養成講座「災害時に問われる地域防災力～平時から取り組む多様な共同参画～」
滋賀県立男女共同参画センター G-NETしが	G-NETほっとセミナー
大津市男女共同参画センター	令和5年度大津市女性活躍推進事業
草津市立男女共同参画センター	草津市男女共同参画リーダー育成事業（参加補助制度）

センター名	事業名
京都市男女共同参画センター	防災リーダー育成事業
宇治市男女共同参画支援センター	情報発信力養成セミナー アイデアから企画へ～「もしも」のために知っておきたい『防災ノート』を作ろう～
大阪市立男女共同参画センター 東部館	プロ講師になろう塾2023
茨木市立男女共生センター ローズWAM	女性防災リーダー育成講座
高槻市立男女共同参画センター	女性のためのエンパワーメント講座
とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ	すてっぷ市民協働フォーラム企画運営委員募集
寝屋川市立男女共同参画推進センター	ふらっと市民セミナー
松原市人権交流センター	母親のためのピア・サロン ココ・カラwith事業、女性のキャリア応援事業
兵庫県立男女共同参画センター・イーブン	男女共同参画アドバイザー養成塾
赤穂市女性交流センター	赤穂市男女共同参画市民講座
小野市男女共同参画センター	おのウイメンズ・チャレンジ塾
加古川市男女共同参画センター	まちづくり講座
加西市男女共同参画センター	女性リーダー養成講座「ウイメンズネット加西塾」
丹波篠山市男女共同参画センター	女性委員会
三木市男女共同参画センター	みきウイメンズすてっぷあっぷ塾
鳥取県男女共同参画センター	男女共同参画推進人材育成セミナー
八頭町男女共同参画センター	女子会@やず
岡山県男女共同参画推進センター	男女共同参画ゼミナール
岡山市男女共同参画社会推進センター	岡山市男女共同参画大学 さんかくカレッジ専門コース
広島市男女共同参画推進センター	男女共同参画の視点からの防災講座、 広島市男女共同参画推進員養成講座
山口市男女共同参画センター	地域における男女（とも）に活躍推進リーダー研修
徳島県立男女共同参画総合支援センター	とくしまフューチャーアカデミー
愛媛県男女共同参画センター	リーダー養成セミナー
こうち男女共同参画センター	女性防災プロジェクト
福岡県男女共同参画センターあすばる	地域のリーダーを目指す女性応援研修
糸島市男女共同参画センターラポール	ファシリテーター養成講座
うきは市男女共同参画センター	若年女性人材育成事業 話し合いが怖くなくなる!「ファシリテーション講座」

センター名	事業名
大野城まどかぴあ男女平等推進センター アスカーラ	生き生きと輝く女性応援事業
田川市男女共同参画センター	女性リーダー育成研修会
筑前町男女共同参画センター	男女共同参画サポーター養成講座
佐賀県立男女共同参画センター	政治参画セミナー
長崎県男女共同参画推進センター	男女共同参画リーダー育成事業
雲仙市男女共同参画センター	島原三市地域男女共同参画リーダー育成事業
天草市男女共同参画センター	ステップアップセミナー
熊本市男女共同参画センター はあもにい	はあもにいウィメンズカレッジ
大分市男女共同参画センター	男女共生セミナー「心のビタミン講座」
薩摩川内市男女共同参画センター	女性チャレンジ委員会、 エンパワーメントセミナー
浦添市市民協働・男女共同参画 ハーモニーセンター	浦添市男女共同参画推進事業補助金

本調査において、昨年度もしくは今年度に「地域の女性リーダー」育成を目的とする事業を「実施した」と回答したセンターの当該事業名

## 令和5年度「男女共同参画センターによる地域の女性リーダー育成事業に関する調査」 独立行政法人国立女性教育会館

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より当館の事業にご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当館では、女性をはじめ多様な人々がリーダーシップを発揮し、地域の意思決定過程に参画することが求められるなか、男女共同参画センターが果たしてきた「地域の女性リーダー育成事業」の成果と、さらなる成果を得るための課題等について明らかにするため、当館の「女性関連施設データベース」にご登録いただいている施設を対象に「地域の女性リーダー育成事業」の内容や課題等について伺うこととなりました。

ご回答いただいた内容は、今年度末に当館が刊行予定の事例集等を通じて公表する予定です。データは統計的に処理しますので、個々の回答をそのまま公表することはありません。

ついては、下記によりご回答くださいますよう、よろしく願いいたします。

入力された個人情報、回答に関するお問合せにのみ使用するものとし、「独立行政法人国立女性教育会館の保有する個人情報等の適切な管理のための措置に関する規程」に従って保管及び廃棄します。

\*は必須項目です

1. センターの名称\* ( )
2. 回答者役職\* ( )
3. 回答者氏名\* ( )
4. メールアドレス、メールアドレスがない場合は電話番号\* ( )
5. 貴センターでは、昨年度もしくは今年度に「地域の女性リーダー」育成を目的とする事業を実施しましたか。あてはまる項目を1つ選んでください\*
  - ①実施した（今年度、実施予定を含む） → 引き続き以下の質問にお答えください。
  - ②実施しなかった（今年度、実施予定がない場合を含む） → 質問は以上です。

ご協力ありがとうございました。

※本アンケートでの「地域の女性リーダー」とは

- ・PTA 役員や自主防災組織のリーダー、自治会長、審議会委員、議員等、地域の意思決定過程に参画する女性
  - ・地域課題の発見や解決に取り組む女性
- 等を指します。



## 調査票

6. 事業名を教えてください。複数ある場合は、最も力を入れている事業名をお答えください。  
( )
7. 事業の概要やプログラムがわかる資料を公開している場合は、URLを記載してください。複数  
年実施されている場合は、今年度（未確定の場合は、昨年度）の資料で結構です。  
( )
8. 概要やプログラムがわかる資料が電子ファイルの場合は、本アンケートと併せ、下記までお送り  
ください。  
独立行政法人国立女性教育会館 研究国際室 島 直子  
メール: rese2@ml.nwec.go.jp
9. 事業は、昨年度以前から実施していますか。あてはまる項目を1つ選んでください。  
①昨年度以前から実施している →引き続き下記の質問にお答えください  
②今年度、初めて実施する →質問は以上です。ご協力ありがとうございました。
10. これまでの参加者のなかに、事業の終了後、下記のような地域リーダーになった方はいらっしゃ  
いますか。わかる範囲で、あてはまる項目をすべて選んでください。同一の方が複数の  
項目に該当する場合は、該当する項目をすべて選んでください。  
①地域課題（例：子育て、介護等）を解決するための団体・グループ等を立ち上げた  
②地域課題を解決するための団体・グループ等の役員やリーダーになった  
③自治会役員になった  
④審議会委員になった  
⑤議員になった  
⑥貴センターの事業の企画や実施等にかかわった  
⑦その他（具体的に： )

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

令和5年度

女性のキャリア形成や意思決定過程への参画についての調査研究

男女共同参画センターの「地域の女性リーダー」育成にかかわる取組み

－地域における男女共同参画の実現にむけて－

発行	2024（令和5）年3月
編集	独立行政法人国立女性教育会館 〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728 TEL：0493-62-6479（研究国際室） URL： <a href="https://www.nwec.go.jp">https://www.nwec.go.jp</a>
印刷	株式会社 石井印刷



